婦人新報

第三百三十二號

我らの目標

世界の

平和・純潔・禁酒

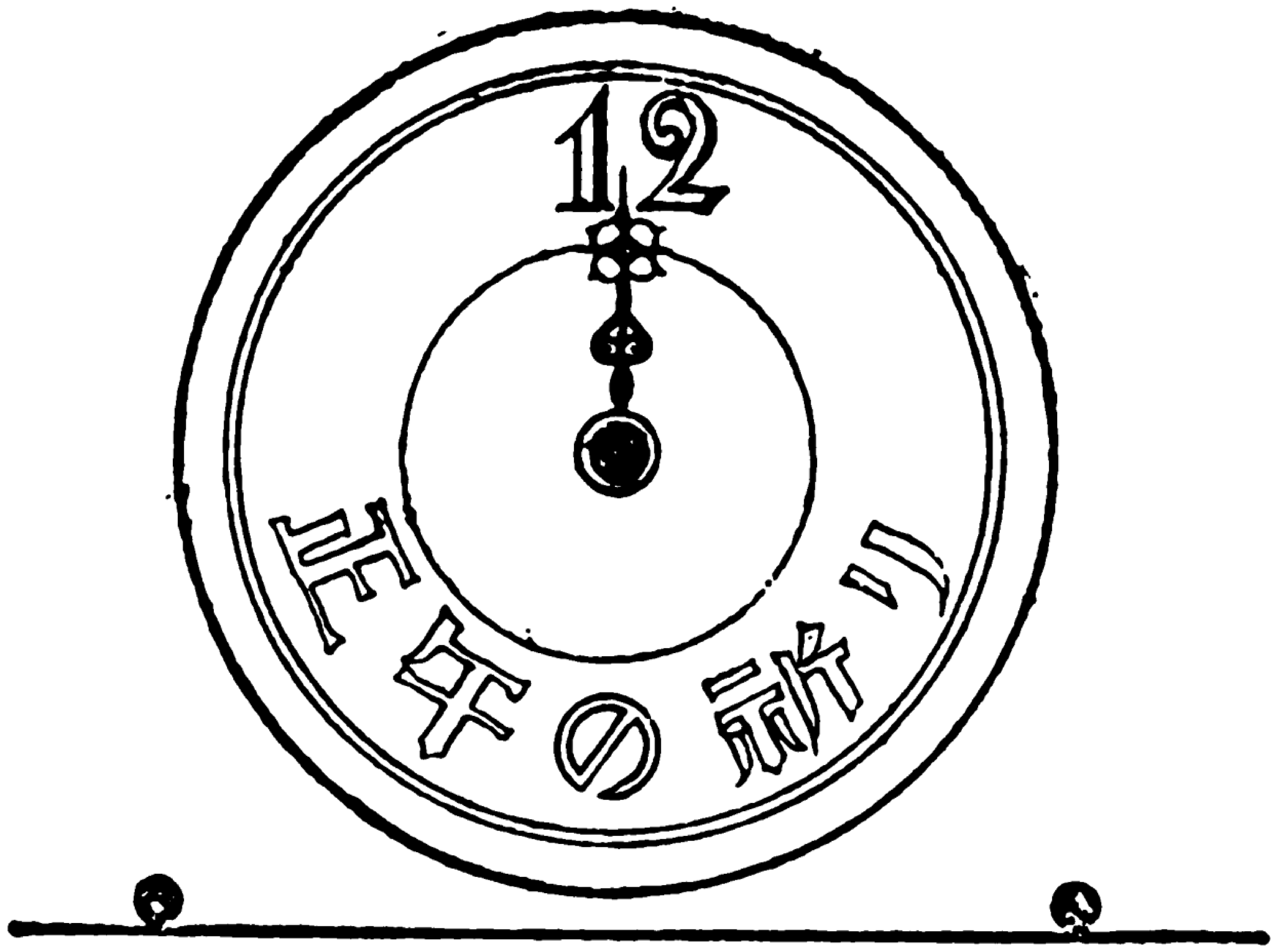
十月號

基督教婦人矯風會

第三百三十二號目次

FUJIN SHIMPO

No. 322. **CONTENTS** October. 1925



燈を燃て隠れたる處、あるひは升の下に置く者なし。
入り來る者の其光を見ん爲に燭臺の上に置くなり。

身の光は目なり、
爾の目瞭かならば全身あかるく、
其目眊ければ爾の目も暗し。

故に爾にある光の暗からぬやう愼めよ。

もし爾の全身光明にして暗所なくば
燈の輝きて爾を照す如く全く光明なるべし。

婦女禁賣問題と婦人矯風會

久布白落實

一

今度樞密院に交付せられて、不圖らずも國民的問題の一つとなつた婦女禁賣問題に關しては、我が婦人矯風會は、少くとも、十年の關係を有して居ると申て差支へありませぬ、海外醜業婦人取締の上から申すなれば、それは四十年にもなりませう、然し目下の直接な問題としても已に十年を算して居ます。

大正五六年の頃、慈愛館に收容せられた娘の內に、歲未だ十六歲で、醜業を强ひられた娘がありました。この娘を其儘主の手から取戻して正しき生活に入らしむる爲めに、大久保に引き取りました。然しこの時、私の心に大きな不審として殘つた事は、我國では、一人の女子が、眞心から其純潔を守つても若し金錢に困り、或ひは不幸な境遇に陷つた場合に、これを期として其娘の意志を蹂躪して、無理强ひに賣淫行爲を爲さしむる時、其れに對して、この事を强ひたものに何故罰則が無いのであるかと云ふ事でした。

二

此時、私共を助けて、娘を法律に從ひ、其の身代金を拂ふ事なしに、私共の手に返して吳れられた一人の有志家は、私に勸めて、此の事は、日本の內國法では駄目です。それ故、英國公使館か、米國公使館に持ち込み、この娘を救ふのに關係の有つた宣教師等のかゝりからして、是非外の力を借りて問題を解決した方がよいと云つて吳れられました。然し私は考へました、我國に、同じく三千萬の女性が生活して居るのに對して婦女の純潔を保護する法律の無い筈はない、此れは私共の無智であらうと信じて、先づ國法に訴へる事にしました。それは、私共の會としても始めての試みでした、この娘を女中に雇うて、賣淫を强ひた宿の主人、この娘を其所に世話した男、この娘の賣淫を强うる爲めに、印を僞造し、虛報を僞造した男、等五名を相手として訴へました。

この裁判を進めて行くに對して、西洋人四名、日本人四名、

八名の委員を立てゝやり始めました。問題は茨城で始まりましたので、茨城縣水戸の地方裁判所に出し、それから東京へ移し、控訴院、大審院と、約五年がゝりで裁判を進めて居ました。然し終りにこの事が、微罪不檢擧と云つて、却下されて來た時に、私は始めて悟りました。我が國には、この處女を保護する處の適當な法律が無いと云ふ事を。

三

丁度この時でした、私は始めて、千九百廿一年に日本に送られた、國際聯盟の婦女及び兒童禁賣の條約文を見ました。丁度私が夏休みに、伊豆の伊東に行つて居る時でした、一日新聞にこの記事の出て居るのを見て、これこそ私が永年求めた法案であると思ひましたので、直ぐそれを切拔いて、手帳に納め、東京に歸る時を待ち兼ねて、之の爲めに運動を開始しました、私は殆んど盲目のやうに、この數行の條約文を抱いて、先づ第一に、あの故人となられた嶋田三郎先生の御宅を訪ひました。先生は懇ろに、この事について相談相手となつて下さいました。國際聯盟協會、法文は內務省と、外務省へ、法律は辯護士へと、それ〳〵紹介狀を認めて下さいましたので、私は即刻準備に取りかゝつて、終ひに其年の暮までに、七ケ條に渡る、婦女保護法案を編み、これを横山勝太郎氏に依つて、第四十五議會に提出しました。この法案の條文によれば、よし父母であつても、其子女を賣淫業を營むものに、金を以つて賣渡す事は出來ない事になつて居ます。若しそれを爲した場合には、二年以上の懲役に附すと云ふ事になつて居ました。然し今から考へて見れば、この法案が、通過したとすれば、今日儼存して居る、明治卅三年發布の內務省令の女子は滿十八歳にして娼妓たる事を得、娼妓たらしめむとする時は兩親又は最も近き尊親族の認可を得べしと云ふ法文と抵觸する事になつて來ます。勿論法の意義から云へば、娘自身が娼妓となるかのやうに、出來て居ますけれども、これは、親又は、尊親族が、この身賣をさせると云ふ事は明白過ぎる程、明白な事實です。それでこの法文は、隨分當時の輿論となり新聞雜誌などでも盛に論議せられたるにも係らず又全國からは團體として四百餘の團體から共鳴して、賛成の調印も集つて來たにも係はらず、終ひに否決の運命に陷りました。

四

私は、この時以來、このゼネバの國際聯盟から來た婦女及び兒童の禁賣の條約文に對しては、切つても切れぬ、間柄となつて仕舞ひました。そして、如何にもしてこの條約文が、我

國に於て立派に批准せらるる日を待ち望んで居ました。それから間もない事でした、會を代表して、矯風會及び禁酒會の萬國大會に出席し、且つ歐米諸國の參政權等の事を取調べる爲めに出掛けたのは、此時幸にして林歌子姉と同道し、約六ケ月の行程をつゞけました。この時、私は、歐洲に參つたら、何は兎もあれ國際聯盟にゆき、彼地で、この條約文の生れ出でた行程を心ゆくまで取調べたいと思ひました。そして此の部の部長であるクラウデー女史に面會し、親しく、此法案について伺ひました。然して同時に、この條約文を基礎として、内國法の改正につとめて居ると云ふ事を更に附記して申しました。女史はこの事を耳にして非常に喜ばれました、そして申されるには、この事は、洋の東西を問はず、全世界の問題であるから、共に力を盡してやらうと云ふ事で握手をかはして歸りました。

五

この旅行の歸り途に、私共は、シンガポールに立ち寄りました、然してこゝで不圖らずも、この問題の實地試驗に出會ひました。それは、この地に十二歳の時、養母の手によつて連れ來られ藝者となる用意をして居る内に、シンガポールが公娼廢止となつた爲めに、其養母が、丁度日本歸國中に英國官憲の方から、この婦人を入國禁止にして仕舞つたので、保護者を失つた。この娘が、英國の保護官の手に於て保護せらるゝ事となつたのです。養母が入國禁止になつた時、實父母の方では、日本人會や、領事館を通して、引き取り方を求めましたが、英國官憲は、其養母が賣淫業者であり、且つは、日本には婦女保護の法律がどうなつて居るのか解り兼ねると云つた處から、日本人會にも、領事館にも其娘を渡すことを躊躇して居る處でした。折から婦人矯風會の一行が、シンガポールへ著いたと云ふので、土地の牧師を介して、丁度この前に最一名、シンガポールの娘が自殺して、東京の矯風會に保護せられて居ると云ふ事實が有るのと、又この處女保護法案などの事もあるので、ついに私共の一行にこの娘を委任される事になりました。然し、それでも未だ不案に感じられたものと見え、保護官自身がペンを取つて、手紙を書き、どうかこの娘が丁年に達するまではしつかり保護して貰ひ度い、其上は、結婚させても、又獨立させても自由です、と認めたものを私共に渡し、懇ろに依頼せられました。

六

私は我國の娘が國外に出て、他國の官憲の御世話になつて居るのを、目のあたり見たのは、これが始めてでした、そし

て、あの赤道の北一度と云ふ、熱いシンガポールのやうな處まで、我國の娘がゆき、それが、英國の保護官から手紙を以つて、丁年まで保護して呉れと依頼までして渡されると云ふ出來事に對しては、私自身餘りに不用意でありました。然し省みて見れば我國では、十八歳になれば公然と娼妓となる事が出來ます。そして藝妓や酌婦と云ふのは表向き法律上では賣淫が仕事では有りませぬから、この仕事の方には勿論年齢の制限は有りませぬ。それで、半玉とか、何とか云ふのには十でも十二三ででもなれます然るに一般社會では一旦藝者や酌婦と名が付けば、當然酒の出る客席に侍ることになつて居ますから、こゝで娘の純潔を保證すると云ふ事は、爐の内にくべて燃えない保證をする如く困難です。して見ると殘念ながら、この英國の保護官が一度自分の方で保護して、眞面目な娘として育つ途のついたものを、うつかり日本人の手に渡さなかつたのも無理のない事です。又、不肖ながら我が矯風會が永年の此の方面に力を盡し、現在、死力を盡して娘を保護し又、其法律改正の爲めに、力を盡して居ると云ふ事を知つた時に、日本に於ける信ずべき團體として、この娘を渡して呉れた事も諒としなければならない場合です。

七

今如上の娘は、小學校をこの春優良な成績で卒業し、運動部の選手とまでなつて立派に育つて來た時、此の夏、兩親が無斷で其奉公先きから連れ歸つて仕舞ひました、固より親の事、實父母の事ですから其手許で眞直に保護せられるなれば、一言も有りませぬ、然しこの娘の養母は、シンガポールを追はれて、今日内地で然かも五反田で藝者屋を開いて居ます。この父母と、養母の、間には、前からの金錢關係も有ります娘が十八歳になるのは目の前の事です、この家庭に歸す事は保護の途であるとは思はれませぬ、私共は、國際聯盟のこの條約文、婦女の保護年齡を十八歳より廿一歳とする事は、河向ふの火事では有りませぬ、今日只今の問題です、この問題が今日我國の識者の知る處となり、稍々社會の耳目に入つて、少くとも彼の保留が徹廢の聲明を見るに到つた丈けでも喜びを感ぜずには居れませぬ、同時に、一日も早く内國法を更めて、この保護年齡を國内にも適要し得るやうに、又國際聯盟への保留なしの批准が一日も早く出來得るやうになる事を心より祈つて筆を擱きます。

文明への反逆

賀川豊彦

一

私は最近ヨーロッパを廻つて参りました、伊太利からパレスチナよりエヂプトへ着き、紅海を經て印度洋に到りコロンボに上陸して、言ひ知れぬ憂鬱を感じた、コロンボより更に東するに從て、この『東洋の憂鬱は何に依て起るか？ 一は白色人種の壓迫、一つは東洋人種が如何に組織のない民族であるかといふことである。彼等は組織なきため、未だに原始的な生活に甘んじてゐることを』つく〴〵思はせられた。

私は獨逸を訪問した時、獨逸はさぞ困つてゐることだらう衣食住が不充分であらうと考へたが、この想像は全部裏切られたのである、青年の意氣は潑溂として、その一擧一投足に活氣があり、各教會堂は殆ど彼等を以て滿されてゐる、約七千七百億圓を、戦禍に費したヨーロッパが意氣消沈を示さないで、殆ど大戦争を味はない日本が遙に意氣消沈してゐるのである。獨逸は三千億圓以上戦争に費したが、あらゆる方面の復興著しく今日では殆ど之を苦にしてはゐない。マークの相場は僅か二億弗を保障されたゝめ戦前よりも非常に高くなつてゐるのである。これに比べて我國はどうか、震災のため僅か百億乃至百十億圓の富を燒いたゝめ、圓の相場は、昨年の十一月、百圓が僅かに三十七弗半位であつた。今も尚非常に安く四十弗半にしか當らない、上海から日本に入ると、日本は一層憂鬱である、一方では一家八人が頼母子講の掛け金が拂へないと云ふので神戸から近江の瀬田川まで行つて、投身したといふ八人の親子心中がある。今日も四人死んだ、明日も何人、又その次の日もと、家族心中が四回も五回も續くことが新聞に報ぜられてゐる。その半面では失業者が四十萬

人ゐるのである。失業者は佛國に殆どなく、英國では百萬人居つたが、一九一九年以來三十二億圓の金を出して、之を全部救濟した。

日本のみは失業者に與へる金がなく、失業者は貧困の極に陷つて棄鉢となり、泥棒殺人を平氣でやるのである。然るに一方には浪費甚しく、飮食量は益々增加しつゝある。

大正十二年、あの大震災のあつた時ですら、國庫收入のうち酒から來たもの卽ち酒造稅が最も多額を示したのであつた。その額二億二千六百萬圓であるから酒のため費された總金額はその七倍約十五億圓、十五億圓からの酒を飮んでゐたことに感づくのである。我國の財政は普通歲入十二億、特別會計を合して三十二億圓許りである、するとその約半分の金が酒のために費されてゐるのである、日本に貧乏があるんぢやない。酒が日本の富の過半數を吸ひ盡してゐるのだ。

私は米國に行つて、その殷盛な姿に驚いた。百年經つても、日本は米國の眞似は出來ない、ロスアンゼルスの石油礦は六百餘の吸揚機を有する、石油の供給が豐かなるため一ガロンが僅かに十六仙——安いから自動車に乘るに何の苦痛も感じない、勞働賃金は五弗乃至十一弗半であつて、中古の自動車一臺は二百五十弗。一日酒一合はぶけば一年にしてガソリンを豐かに自動車一臺買へる。勞働者は自動車に乘つて工場に通へるのである。その禁酒國の米國で、酒を飮むのは日本人だ。日本の料理屋の連中は茶瓶の中に酒を入れて「之はお茶です」といふ。之を見た洋行歸りが米國にも酒がある〳〵と鬼の首でも取つたやうに自慢するのである、ハワイ、サンフランシスコで私は日本人が酒を密造するのを見て來た。事實米國の禁酒は確實に行はれてはゐない。恰も日本に於て、法律の明規に反して姦通が澤山行はれるやうに、畏くも敎育勅語の中に「夫婦相和し」と宣せられるにも拘らず、吉原に何千の女郞が存在すると同樣に。

然し米國の禁酒は一日や二日の宣傳の結果ではない。少くとも五十年の宣傳と、二十年の經驗とに依て、二十七州が州から州へ酒害の知識を普及した努力の結果である。カンサス州の如きは、酒を止める前は、一千人の人々につき、十七八人死んだのに現今では只の九人、それが日本では二十一人の率になつてゐる、そういつた事實を見るならば、如何に現金

な米國人も酒を止めざるを得なかつたのである。今度の旅で最も愉快だつたのは宴會の席に酒がないので、私は直ぐに立つて演説する機會を與へられたとである。元アメリカの社交界では客人に必ず酒をのます習慣があつた、私も苦學時代は宴會で酒の給仕をした事があつた、當時は何百種といふ酒を配合して手品のやうな酒を賣る方法があつたのに、今ではそれがすつかり生活費の大部分を奪はれて酒がなくなつた爲め勞働階級の貯蓄の多いことは實に世界第一。日本が百年にして追ひつかないと言つたのは米國に酒がないからだ。

二

私は歸朝してから度々農民會合に出る。すると組合の幹事の人が私に言ふ。「賀川さん、この小さな二三百軒の小農の集つてゐる村が、一年に五萬圓、十萬圓といふ酒をのんでゐるのです。我々の村の貧乏は酒のために幾層倍してゐるのです。酒を止めない以上農村問題は解決しないのです」と實際私が小作爭議のある村を廻つて見たのに、村の有志家は酒を水のやうにガブ／＼と飲む、生活さへたゝないやうな小作人の寄つた小さな村が年に五六萬圓を酒代として拂つてゐるのである。こんなことをして居ればのつぴきならぬ重大な結果が數年ならずしてやつて來るのは必然である。眞に國を憂ふる人達は、白ばつくれて居れないぢやないか。

獨逸の化學研究所の所長が、日本の國情を調査して歸るや、日本についての感想を發表した。その中に我々の最も恐ろしいことが二つある、その一は日本人は白色人種の敵ぢやない。何故ならば、生理的に缺陷があり、榮養が不良であり、梅毒が慢延して、國民の骨の髓まで腐らせつゝある、その二は、日本人程組織を持たない國民はない。これはかの有名な毒瓦斯發明者ハーバー氏の言である。

私は上海から長崎、長崎から神戸へと船でかへつて、この憂欝の感を深くせざるを得なかつた、日本は一つの冒險性を缺いてゐる。國民盡く盃に溺れて、民族的發展の意志を持たない、北海道、滿洲、蒙古へと延びることを知らない、日本海の北側に延びる勇氣を持たない、ロシアのソビエット政府は日本の移民を歡迎してゐるではないか、北海道は八十五萬町歩、二百五十萬の移民を入れ得る餘地を有するではないか。然るに都會にウヨ／＼してゐて海外移民の意氣なく、瀬田川、

華厳の瀧をあこがるゝ國民は正體もなく盃の中にと沈澱してゐる。知らずや。國運の降起すると否とは、一にかゝつて民族的自覺とその發展の上にあることを。

三

地球の表面を胸の底に描いて日本を考へる時、獨逸の化學研究所長ハーバー氏の言の適切なるを知る事が出來るのである、是を勞働者の比較に見よ。彼の營養豊かなる食物に比して、日本人は依然として、麥飯と澤庵で我慢してゐるではないか。麥飯十杯だけの活動しか出來ないのだ、力仕事をしやうと思へばそれに相當するだけのカロリーをとらなければならない。オーストリヤ人は二十貫位の鐵の竿を双手にさし上げることが出來る、然るに日本人の男女の體格の惡さはお話にならない。

日本で一年間に消費する米の高は六千二百萬石である、然るに日本で出來る米の高は五千八百萬石、そのうち六百萬石は酒のために費すのだ、その不足を補ふため最近は米國から米を輸入してゐる。ラングン、支那、南洋からの穀類輸入額は一億圓、從つて十九億の輸入額の内、綿五億、食量品一億、材木一億、肥料二億、衣食住のための輸入品九億に達する。最近驚くべきことには、蝿叩きまで米國物を使つてゐるではないか。蝿叩きさへ日本で造らないのか。三越や松屋等に行つて御覽、飾つてある蝿叩きは全部舶來品である。何といふめでたい國民だらう！ 日本で出來る醬油の代りにソースを英國から輸入し、茶を止めてコーヒーを飲む、遂にはコーヒーを佛蘭西讀みにカツフエーと讀んでわけのわからぬ酒場をつくる。このカツフエーが神田に九百軒、牛込に千百軒あるのだ。年八朱といふ世界最大の利子を拂つて、やつと五億五千萬圓の借金をした。その借金まで舶來物、これで帝都の復興が行詰まるのは當りまへの話ぢやないか、一體どうすれば良いのだ。

四

四十萬の失業者はウロ〱してゐる、英國では之を三十二億圓の金で救濟したが、日本には果してこの金がないのか？ ないとは言はさぬ。ある！ 酒に使ふ十五億圓と、女郎と藝妓に使ふ十億圓、我國に於て、藝妓は七萬五千三百六十五人娼妓が五萬二千二百五十六人、酌婦四萬八千二百九一人、この外

海外に出てゐる淫賣婦は政府の發表に依れば二萬四千人、合計約二十萬人の色慾專門業者を有してゐるのである。これ等に依つて拂はれる稅金より推測する一年間の浪費約六億五千萬圓、故に少くとも十億圓には達するのである。

我國は地震で貧乏して國庫の收入を整理するため四ヶ師團、四萬人の軍人を減じた、國を守る陸軍の數は減じたが、色慾專門の娘子軍は一向減らない。これは二十ヶ師團である。福田博士は復興建築に費す金額を十億と見、そのうち五億は勞働賃金となるが、之を得た勞働者は何に使ふだらうかと考へた時、先づ第一に頭に浮んで來たのは女と酒であつたと言つてゐる、大藏次官の田昌氏は、この點をいたく憂ひて少額貯金債券發行の議を立てられたのである、貯蓄債券も結構であるが、內側の復興がなければ何にもならない。

獨逸のベルリンで獨逸靑年運動の組織者ジクモンドシュッ氏が有つた。彼は東ベルリンの貧民窟で隣保事業をやつてゐるが彼は斯ふ言つた「獨逸の國運は靑年の士氣に存する。獨逸靑年はクリスチャンであれ、國家主義者であれ、唯物史觀的社會主義者であれ、盡く起つて、この運動を全獨逸に波及し獨逸を再興すべきだ――」と、ハノーバーに基督敎靑年會の大會があつた時十萬人の靑年が集ると云はれてゐた。ヒンデンブルグが伯林に入城せんとした時何百萬の靑年が彼の通る、道の兩側にずらりと列んだのである、その人達の中には襤褸をまとつた靑年も多かつた、この氣の毒な服裝の影にも自覺せる靑年の意氣を發見することが出來たのである、我國の何處にこの意氣があるか！　國を起さんとするならば先づ我々の內側の改革、精神的の復興がなければならぬ。これなき間どうして我國の世界的地位が保て得やうか。

五

國際聯盟規約には婦人兒童の人身賣買禁止に關する規定がある、この聯盟に加入してゐる列國の內、女や子供を色慾のために賣買することを許してゐる國は殆どないのである。而も我が日本に於ては婦女子賣買の問屋であつて、婦女子の稼いだ金の上前をはねる資本主義的搾取の制度が存在してゐるのである。

この聯盟規約に對しては嘗てフランスと日本が例外を求めてゐたが國際道德に目覺めたフランスは、この魔窟を五ヶ年

の後に綺麗さつぱり一掃することを宣言したのである、かのゾラの著したナヽの國、驚く程淫蕩な都パリーの淫賣窟すら廢すると宣言したのである。然るに我國では婦女賣買禁止年齡二十一歳を十八歳に引き下げんとする除外例を求めてゐるのである。

世界の四本柱の一つと言はれる日本が、わかり切つた國際道德が守れなくて、東方の君子國としての體面が保たれようか？ 私は佛の大使館に居らるゝ杉村陽太郎氏よりこの話を聞いて、日本は世界の四大國の一つ所ぢやない。只一つの獨立國としての體面さへ保てないぢやないかと思つた、杉村君は私に云つた『賀川さん、日本に歸へつたら國民に告げて下さい。昔ては英國が阿片問題で隨分ひどく世界の非難を受けたが、今度は日本の番です』と、知識階級が禁酒に關して明瞭した見解を有してゐないのは、婦女問題に對すると同一である。

六

凡そ改造の內で最も困難なるものは本能の改造である。銀行の二つ三つをブチ壞すのはわけないが、パイプを國から去るといふ簡單なことが困難なのである、口から吸つて鼻から出すほんの僅かのこの煙突運動、本能運動を拒避する作用が困難である。色慾に關する改造も同樣に困難である。酒を斷然排することは更に困難とされてゐる。

現在都會の狀態を見るに、失業者の出來るのは當然である。之を內側から見るならば、都會の經濟は卽ち刺戟の經濟である硝子の改良、眼鏡の變形、色を濃くして行つて遂には紫とか眞紅な色を好むやうになる。更に強い刺戟を求めるため、太陽のやうな色をさへ出すやうになつた。耳も亦刺戟を追つて、單純な音から複雜なる音へと進み、オーケストラ、交響樂を求めるやうになる。香水も次第に濃厚な句を求める。總ての刺戟を集めたものが卽ちお祭り氣分である。酒も淡い淸酒では堪へ切れなくなつて、強烈なウイスキーをがぶ〳〵やる。コカイン、モルヒネの樣な劇藥までも使ふやうになる。

都會の經濟は刺戟の經濟である。間違つた方向へと走つた刺戟の經濟である。併し生活上不如意になれば、これ等の刺戟をはぶかうとする。本能の間違つた方向に集つた經濟程變則なものはない。

見よ、酒造業者一萬人、酒造業關係者が約六十萬人この影しい六、七十萬人の人達が十五億圓の浪費を生じ、國民の大部分は酒に依て委靡沈滯、道徳的良心を痲痺してゐるのである。經濟的恐慌も、震災の大損失も對岸の火災視し、五億五千萬圓を借金し乍ら而も尙この三倍を酒に費してゐるのである。

七

不景氣に不景氣が續き、生活に痲痺した人達は燒け鉢となつて罪を犯してゐる。大正十年監獄に入つた人の内二萬四千五十一人を調査したところが一萬四千三百六十二人までは酒呑である。比率を出せば入監者の二萬三千百九十四人の中六割は飲酒者である。女は極く少なく、九十九人即ち四%である。女は男に比較して二十分の一しか入監しない。かく見る時、我國では囚人の六割まで酒に關係ある人達である。殺人囚の八割五分も亦飲酒者である。

八

酒こそ國の富を破壞し、精神生活を鈍らし、外國の資本を借り、米麥材木を輸入し、輸入超過を五億に達せしむる等あらゆる國家的損失を招く原因である。日本にも未成年者飲酒禁止法はある。けれどこんな生ぬるいことでは到底駄目である、更に一歩進めて、地方の縣會で議決せられたならば、その自治體の區域内に於ては一切酒を用ゐないといふ地方禁酒制度の設定を何故認めないか。この制度が出來ても一番最後まで禁酒しないのは兵庫縣だらう。何故なれば、兵庫縣は正宗の本場である。我國清酒の一割は「灘」で出來るのだらう。ビール會社は東京に一番多いから、ビールの廢止は東京が一番遲れるだらう。而して岡山茨城等は最も早く禁酒が行はれる可能がある。

要するに日本のこの現狀を救はんとすれば、精神的に亦根本的に改造しなければならぬ。精神的改造の根本方針が立たない以上到底徹底的改造は不可能である。

九

私は永年神戸の貧民窟に居て、酒の弊害の如何なるものであるかは、統計的にではなく、事實で知つてゐる。「グズ富」飲んだら、ぐづ〳〵言ふからさう言ふ名がある。「ノンダノ吉圓」醉つぱらへば實の我子を支那人に賣り拂ふ勇氣が出て來るといふ男。葬式人夫の喧嘩安。是等は酒のため次第々々に

淪落の酒に沈んだ人達だ。私は統計に表れた酒の弊害でなく、社會事業の上に現はれた酒の弊害を頭におく。

酒亂の人達、之を思ふ時自分はぞつとする。私の歯を上下二本折つて發音を不可能にしたのもかうした人だつた。私の知る多くの人達に會つて、その家庭に、酒のため起つた悲劇をきく時私は身慄ひする。大阪醫大の教授K學士のお父さんは大酒飲みだつた。酒をのむとK學士の母をいぢめるので、その弟が見かねて、遂にその父を縊り殺した。その電報を受けとつてK學士は直ちに播州の實家に歸ると、母が祕密にして與れといふ、けれど事實をかくすわけには行かぬといふので弟を姫路の裁判所に訴へた後、自分も責任を感じて、土藏の梁に帶をつけて縊り、自殺したといふ。かうした家庭の悲劇を自分はあまりに多く知つてゐる。酒は人類の類廢退化、犯罪、發狂、脳膜炎、白痴等の根本原因である。

十

富を破壊するものは二百十日の洪水ではない。十億萬圓の酒の洪水だ。

洪水だ！　洪水だ！　それは酒の洪水だ。十五億の富を一年間に押し流す大洪水だ。然もそれはたつた一杯の盃に盛られてゐるのだ。

一度の酒は二十倍の害を國民に與へると言はれてゐる。十五億の浪費は三百億の損害を國民に與へる。孫子三代までアルコール中毒者として押し流す。日本が眞に東方の君子國たらんがためには皆が自覺しなければならない。我々がしなければ次の代の人達が苦しまなければならぬのだ。この國民をして絶對禁酒にするまでは、どうしても滿足することは出來ない。小さな盃に盛られた洪水！　我國の義務教育費は僅に一億二千萬圓、四千萬圓の國庫補助を二千萬圓增すとか增さぬとか云つてゐる。大中小全部を合して教育費全部が四億六千萬圓。そして我々のコップのためには十五億圓！

嗚呼、東洋の憂欝！　東洋の憂欝！　暗黒な憂欝！　どうして我々が堪へ得るか？　今は目醒む可き時である。

（終り）

十年計畫の第二回禁酒教育運動

少年禁酒軍　守屋東

昨年度に於てめでたく第一回禁酒教育運動を終つた我少年禁酒軍は、此九月から第二回禁酒教育運動に掛りました。

第一回に於て數千の後援者が全國二萬五千の小學校を負ふて下さいました。此年はまた其方々を初め、未だ一校も負ふ事を御存知なかつた方々に御知らせして此運動の有力な一員となつて頂きたいと願ふて居ます。

禁酒教育運動に御助力を願ひます

日本には現在小學校の數が約二萬五千校程あります。勿論、臺灣、朝鮮、滿洲、樺太は申すに及ばず、委任統治の南洋も加はつてをります。

日本には現在小學校の生徒數が約八百萬人程あります。此兒童は、次の日本を背負ふて立つべき「後の親」であります。

我少年禁酒軍は此小さき國民等に、心からの敬意と期待とを持つてゐます。

「どうか健康な身と、健全な精神を以て、愛する此國の後繼者になつて欲しい」と。

そこで先づ一番人類に害を及ぼして居る、酒、タバコの有害な事を此小國民に知らせたいと次のやうな運動を初めました。

卽、十年間、全國の小學校二萬五千校へ、毎年新たらしく酒、タバコに關する印刷物、ポスターを作つて送る事。

學校長に依賴して、右の印刷物及ポスターを、全校の生徒に示して酒タバコの害を數へて頂く事。

今や日本は、國際聯盟よりの通牒に對し、婦女子の賣買禁止問題に關して、世界中一番劣等なる國民也と申してもよき訂正を申出でんとして居ります。

また殖民地と目されて居る朝鮮臺灣滿鮮其他の殖民地は除外例の地として其法さへも實施せぬ方針を採用しようとして居ます。

實に言語道斷な事であります。

是等の問題は實に禁酒問題と離るべからざる關係を有して居るのです、婦女子の實質等を行ふて恥ざる彼等の圍りはいつも酒が漫つて居ります。酒の香せぬ處なしと申程懼ろしき恥づべき此問題は酒と同様して居るのです。

酒は家庭より牢獄まで無數の小網をはつて其根は強く太く社會の各方面に其枝をのばして居ります。

愛らしき少年少女は注意してもく其網にかゝり、又其根につまづいて斃て居ります。此根をたち、其網を破りさらなければ、遂に愛する女兒は兒童は、生命をさへ全うする事が出來ません。

各學校に贈る凡ての手續及印刷物及ポスターは少年禁酒軍で作製して萬事手落のないやうになす事。

一校に贈呈する印刷物の費用は五十錢也、此費用を少年禁酒軍に依托されゝば、少年禁酒軍は喜んで、依頼なさつた方の名前で學校に發送する事。

どうか右の運動を援助して下さいませ。第一回は昨十三年度に終りました。第二回は大正十五年三月末日を以て終りといたします。

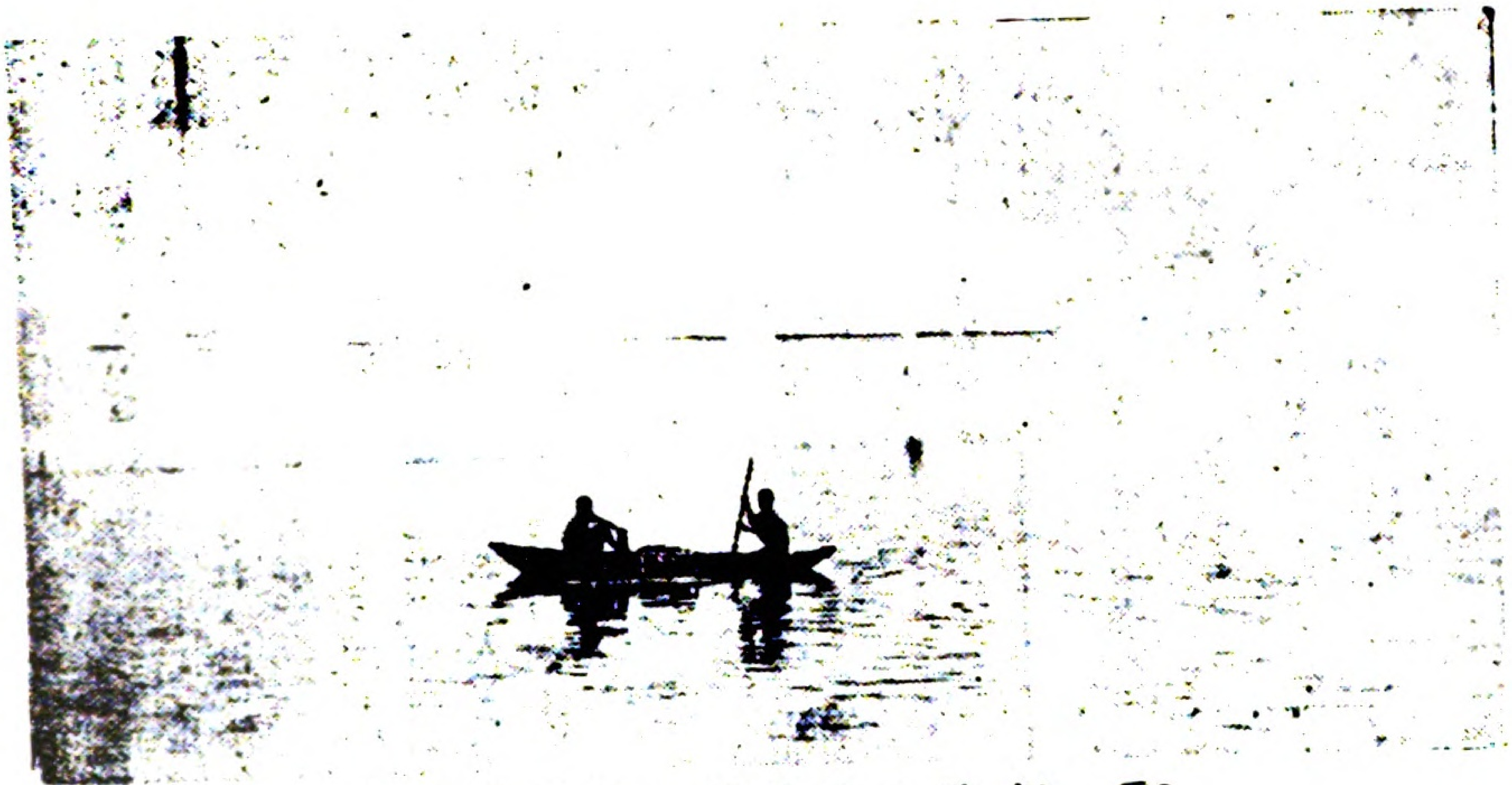
お一人で二千校引き受けて下さつた方もありました、自分の出身郡全部を引きうけて下さつた方もありました、全國に二萬五千校です、お一人が一校づゝとしても二萬五千人の方に願はねばなりません、口では二萬五千ですがなかく多數です、どうかあなたも何校かお引き受け下さいませんか。

少年禁酒軍
東京市外大久保百人町三六〇
電話四谷六五六〇番
振替東京四七四五〇番

本年は全國の矯風會禁酒會を初め、青年團處女會へも願つて、其村を、其郡を、未來の禁酒村、禁酒郡とする爲、先其村、其郡にある小學校を荷負ふて頂く順序にいたしました。我家をこそ、清く酒なきものにしようと願ふ家庭人の思ひも、我國をこそ、酒なきかはけろものにしたいと願ふ社會人の思も道は一つです。

どうか諸姉、第二回の禁酒教育運動を最も有效にする事の出來ますやうに御盡力下さいませ。

欄内の印刷物を多數作つてあります。どうか御入用ならおつしやつて下さい。



南洋の旅

守屋東

日記の一節

乘つてから三日目、六月二日、午後五時

きもちの惡い日がつゞく。

出帆の日の、まれななぎが、却つてたゝつて、

昨日一日低氣壓に苦しめられた。

ローリング、ピツチイング、それは〳〵いやないやな日。

連れの二人もすつかりまゐつて、來もしない。

讀まうにもかこうにも顔あげろさへものうい。

れて〳〵れぬからうときめても、胸ぐろしくてできぬ。

船でやすんでなどゝいふのは夢のやう。

九ノツトの船が七ノツトやつとだときいてますますいやになる。

樂しい時も斯うした時には出もしない、

只人なつかしさに一杯。

一ふろあびてあせして見たが氣持にかはりはない。

何の旅だらう。

休みか、なやみか、ものずきか、

などゝゆられ〳〵てのどかに思ふ。

まさの戀しさに出掛けて來て、船の苦しさに

現世の苦になやむ。

陸ののどけさがしのばれる。

梅雨の陸もおもへばいやだ。

樂しい團欒も氣にむかぬ、私の心に不足があろ?　何?

私は人戀しさに苦しむ。

人のない處でやすむより、人の中で休む自分なまた見出す。

わがまゝすぎて人から逃げる、逃げて〳〵

一人で淋しがる。

六月七日(月)

初めて御機嫌のいゝ天氣、禮拜をする、三人して。よろこばれたやうな氣がしてうれしい、お晝はフエヤウエルランチ久しぶりに果實や野菜に笑顔を見せた、夜の月の出の見事な事南十字星を見出してよろこぶ。

上甲板にあがつて太陽の高度を見たり、何もかも初めてゝ二人は滿足。手紙十六通、原稿一つ認めて十時寢。

六月八日(火)

髪を洗つてすが〳〵しい、島が見えるとの聲に甲板に出る、黑い水平線上の一帶、あれが島?

水邊から寸のやう、獨人一人住むといふ。

水の色の美しさ

島の娘の着衣の色よ、そのうしほ色、

遙かに見ゆるパラオの島、綠の色、

若人が胸の色、希望の色、

幾千年來斯うして浮いた島族に、南國の詩も生れて椰子となつたのか、陸近くなつて海の靜かなれば、船のすてがたくて などゝおもふわがまゝの限り。

船はパラオに着いた、何といふ美しい島だらう、只もう龍宮のやう、島が一つ〳〵ぎつて底が獨樂のやうになつてゐる、樹は密生して居る。水は淸い、底まで見える。ベツコウ龜が浮き上つた、平和な島だ、風がすんで居る、土の香を味ふた。

ついた夜はねられなかつた。

氣がすんで、詩になりきつて、天地が皆唱つてるやう、ねようとしてもねられない。

土の底まで此南國の温い氣がしみこんで居るやう。

若し創造の力が、どこから始やうかと考へてした此地球だつたら、此南國から始めたのではないか——と思つた。

月があかるく、椰子の葉かげに照る其光、

風はない、只靜かに葉がゆらぐ

蟲がなく、鳥がうたふ、露がシツトリと、あがつた草木をうるほして居る。

全く感謝に昂奮した。

これ程共鳴した空氣にひたつた事はない。ほんとに自分の居るべき處に來たやうにおもへた。

南國に育つた人の一つ〳〵の細胞が、此氣で成長したのなら、とても寥い國のものには解らない、南國の力はこゝにある、此力を詩にしたのがタゴールなのか、木にしたのが椰子?

最も單純なリズムの中に宇宙を容易に懐いてゐる、此色彩にも形にも得言はぬ味と美と粹とを見出した、私は泣いた、書けもしない。

只靜かに頭をたれて天然に謝した。

私も其天然自然の愛見なのだ。

南洋の旅では、二つの思ひ掛けぬ恩惠をうけた、即南洋廳の御手厚い御接對御案内と、今一つは島民の心籠めた歡迎とであつた。

私は只まさのに面會する事と、南洋が委任統治の日本領であるから視察したいといふ、最も簡單な考へで、病氣ではないが體休めのつもりで出掛けていつた、從つて同行者も、のどかに、娘かの子と看護婦の金谷氏とついてゆきたいといふがまゝに連れて行つた。

美しい小さい島を巡り〳〵て、人々に心から迎へられた時、友の有難さを感じた。

南洋に關する理窟は別として、巡り歩いて見るには、ほんとにはてしない同じやうな數多い島々のあるのに驚いた。

十五世紀の終りに葡萄牙人によつて見出されて以來、南洋諸島の探人は、幾代かの異國人の支配をうけた、島にそのまゝの記錄もなければ、古物もない、うちのこされたやうに、のどかに島が無口で語つて居る丈け、四季もなければ變化もない、子は親を、親は子を、殘し〳〵て今日に及んで居る、過去六七十年字が敎へられ、歌も譜が傳へられて、新舊のキリスト敎が入つてから、たしかに島人は一大變轉したやうに思はれる。

でもまた無智な島民は、昔を忍ぶこともな



南洋風景ノ一

く、習ひにしたつて居る。

委任統治、歐洲戰後の日本は此無敎育の島を統治する事になつた、役人は任ぜられた。妻は夫に從つて家を作つた、こゝに四年、內地で想像出來ぬ寂しさと困難と戰つて居る多數の家庭を見出す。勿論、任は重い、政府は適當な設備をなさんとして居る、然し未だし、內地を離れて孤島に夫と共なる妻人に感謝する。同時に新たらしい風俗習慣を生み出す任を持たるゝ婦人にもまた男子方にも御努力を願ふてやまない、つまらぬ陋習にとらはれず、四季さへなき常夏の國には、それ相應の道を開かるやう。殆んど日本人といつては一家族の如き少數の社會生活に於ては、充分相互補助のよき例を、あくまで作り上げて頂きたい、上役が父なら下役は子です。親は食べずも子にはやりたい親心を、何につけても出して頂きたい、さうした美しさを見て一層その擴大されん事を懇ふ。

民間といふ言葉は植民地にいつていつも氣持を暗くする言葉である。お上、民間、斯うした思ひで運べばこそ物にこだはりが出來る、同じ內地の人として等しい氣持で進む事が、委任され統治された本旨を全うする事ではないかしらんと思ふ。

巡つて視た島は

パラオ(南洋廳のある處)——

トラック(軍政時代本部のあつた處)——

日本南洋傳道團

ポナペ(獨領時代の首島)

ヤップ(戰に强いと云はれた島人の住む處)

サイパン(南洋に只一ヶ所汽車と氷のあ

ろ處）

トラックは往復二回上陸、夏、冬の兩島で島民にもまた内地人にもお話する機會があつた、山口照巖兩宜教師が島民の爲働いて居られる、山口教師はトラックの語に通じ今熱心に百科字典を書いて居られる、トラックにある百科字書は、六七十年前、米人が作つたもので、日本の部にはチョンマゲのさし畫が入つて居る、從つて今日の場合此書を島民に讀ます事は、あやまりが多いといふので山口教師は使用をして居られぬ、でも持つて居る島民があるので誤が多くて困るとの事、一日も早く此書が出來るやうに願ふてやまない、千圓程の金が必要だと伺ふた。

ポナペはまさの住む島、田中教師の家に働て居る此娘の爲にいつも私の祈は絶へない、此度の訪問は約束であつた事ながら、約束を重んじて訪れて見ると本人も心から喜んだ。

ポナペの島民は島の中でも進歩して居る、特に獨逸領時代には其知事（獨逸人）を殺した事さへある人々、なかなか理智の目が覺めて居る、生活の狀態もトラックの比ではない、田中教師はすでに七年此島に傳道して居られる、島民が懷かしみしたふ様も尊い。

此島は島巡りをした、傳道師（島民）達が舟を漕ぎ途案内をして三夜の舟で一週間を費して巡つた、此間の出來事は私の忘れる事の出來ない記憶の頁である。

島民傳道師の家にも二度宿つた、飾らぬ眞心こめた其もてなし、私はほんとに昔ガリラヤの傳道の旅をさへ想像した位であつた、輝かしい神の光が輝いて居る彼等の家庭の美はしさ、信仰をもつものゝ强さを充分味た。

島巡りして興深く見た事は警察官、小學校長の位置が實に高い事、全く島民と最も親しい交際を持つものは此二つの役目である、此二つの位置に座る人の人格は日本を代表し、我國家を代表し、凡ての親愛も、憎惡もみなかゝつて居る。

マタラニウムの小學校長、並に警官の一致共同、悉く打ち開いて島民の爲につくさるゝ處を見て深き感謝をもつた、そこには村政の上に學校の教化の上に見事な事實が旅のものの目に示さるゝからである。

南洋の役人の中最も大切なものは教師と警官であると申しても過言ではないとさへ思はせられた。

安積宜教師はオア村に學校を設立して廿有餘名の男生徒を教へてをられた、教育の効果はすぐにはない、然し時代は教育によつて導かれて行く、同氏の御苦心を感謝する。

ポナペから二人の娘を連れ歸つた、私は此二人が後のポナペに何等かの御用をする事が出來るやうにと思つて。

子供を手離す事はどの國民でも喜ぶものはないが、特に此島の人々は子煩惱である、容易に出さない、然し此二人の子供の父は、母は、叔父は心から、進んで二人の東京遊學を願つた、私は預つたら生死に關する場合をも考へねばならぬ。

「若し此子供が日本に勉强して居る間に死ぬやうな事があつたらどうしますか」

「天國で會ひます――」

私は心から二人を預らうと決心した。

二人の子供も其親も熱心な信者であり且傳道師である、神のみ旨に從ふもの、强さは斯うした實例で確に知る事が出來る。

南洋についての天然を若し書き初めたなら限りがない紙數に限りのある今日私は時をかへてそれは書く事にする。

南洋の暑さは直射する光は强い、然し室内に木影にあれば八十四五度を越えない、それに驟雨は日々見舞うので涼風は美しい、ほこ

りのない島は、木の葉はつや〳〵して露したたる思がする。月の夜、椰子に匂ふ其月光は南洋の寶であらう。

南洋の宗教は耶蘇教、それも新舊兩方面になつて居る、新教は、米人、獨人が殘したものを今日本傳道團（小崎弘道先生が其會長）から四人の日本人宣教師が派遣されてポナペ、トラックに在住するもの、米人はクサイ、マーシャル島に婦人宣教師が道をといて居る、其他は悉く西班牙の宣教師が舊教を傳へて居る。其教會には大かた學校を設け、島民に種種教育をほどこして居る、勿論島の言葉を用ふるが其子供には教師の國語を學ばす事が多い、從つて日本人でない宣教師に指導さるゝ島民住者は、日本の事狀よりも其教へる宣教師の國土について學ぶ事が多いといふ事はやむを得ぬ事である。佛教は、東本願寺別院がサイパンに一ケ所あるのみ、然もサイパンは最も舊教の盛んな處、且島民が南洋第一の文化の進んだものである爲に、住職小林氏は困難して居られた。南洋に於ける宗教問題は面倒な問題の中の一つであると視察した。

私が最も喜んで見た事の中に病院がある、各島に完備した病院が皆ある、而も其院長は人格高き方々のみである、此事はどの位統治の上に深い信頼を内外人より受ける事かしれない、人の最も眞實なる時は生命に關する時である、また最も弱い時は病氣の時である、お醫者樣の立派なるはどう考へてもうれしい事。



前列中央守屋東、その右田中夫人、田中牧師、その前金谷つた子守屋氏の後ろまさの、右石川かの子、他は南洋の基督者諸氏、と田中氏の三令孃

教育は全島に公學校が設けられ、島民兒童の教育が行はれて居る、内地人の爲には小學校がある、裸の島民兒童が學ぶ樣は一種の哀愁を感ずる。若し日本文字がローマ字で敎へられたなら、今より早くおぼへはしないかと思つた、島民はローマ字は殆んど讀む事が出來るから。

離島に奉職する公學校敎師に強度の神經衰弱に掛かるものが多いとの事、御同情禁ずる事が出來ない。

視察して南洋の美を知り、生活に興味のある事を見た私も、こゝに一つどうしても不備なものは娯樂機關のない事である、娯樂は決して餘計なものではない、人類に美しい娯樂があつて初めて生活が形づくられる、南洋に娯樂機關の少ない事はどの點から見ても困つた事である、良人に從つてゆかれた夫人達の間にも、また、兩親と共に暮す子女の間にも變化ある然も共同して樂しまれ得る娯樂のない爲どの位寂しさを感ずる事かしれない、其感が大きな問題に因をなす、政府が財源貧し

くしてなし得ないなら、此問題は同胞婦人の間から聲を大にして其完成を期するはずと思ふ。

南洋にある婦人達の爲に內地にある婦人はより深き後援と感謝を捧ぐべきである。完備しても物足りなさの多い植民地の婦人が味ふ苦心は、決して內地のもの〻想像に及ぶものでない、同時に彼地の婦人等が相互に親しむ交りも實に美はしいものである。

國際聯盟の規約の中に委任統治の人民には三パーセント以上アルコールを含有する酒は禁ずるといふ事がある、日本は此南洋に於て島民に對し絕對に禁酒令を施行して居る、おしむらくは內地人は飲酒が自由である、其間に甚だしき行き違が多くあるやうに見受けた、奮勵一番、南洋まで出て、我國の爲につくさんとする我同胞の、諸兄姉排酒して島民の進化に益あらしめて頂きたいと思ふ。

ヤップ島は石貨のある所、婦人は月經時、特に造られた月經屋に逃れ、月經終れば黑の緒で首かざりを作つて胸間に飾る奇習のある島、此島の人々は今も大部分男女とも裸體、草を乾したる腰蓑をまとつて唯一の裝ひとして居る、顏形は一番日本人に似て居ると思ふた、海底電信で國際問題がやかましい島である。

サイパンは南洋唯一の製糖會社を有し會社は七十萬圓の稅金を南洋廳に納めて居る。



日本服を着た南洋の娘さん

勞働者の大部分は琉球人、三千より四千にのぼるといふ、此島に初めて町があつて、汽車もおもちやのやうなのが動いてゐる、船つきの惡い事でも南洋一である。

此島には五日滯在して支廳長法院長の御世話に預つた、集會も五回、島民小學校でし話した。

內地から六日間の海路、南洋色あざやかな此島、交通を便にして內地の人士の訪問をおすゝめする。此島の島民は、進歩したチャムロ族と、今猶裸體のカナカ族からなつて居る、チャムロ族は全く歐洲化して其居も食も衣も整ふて居る、決して一口に野蠻視する事は出來ない。

南洋一帶を通じて風土病はなし、毒をもつ蛇も居らない、住みよい島、うつくしい風景、太古のまゝのカヌーに乘つて波靜かな海上を走れば天上の思ひがする、海の底には色も形も纖細なさんご礁、およぐ魚さへ造りものゝやうな麗朗たるもの、物產の少ない島。

大きな島でも伊豆の大島位のものはない位だ、數千の小島は其間の隔りが遠いものは四百五百哩を有して居る、そして言語が悉く相違して居るなどゝいふ事は全く想像外の事であつた。

只此小さい無數の島が世界の人々の心に大なる問題となつて殘さるゝ處は、軍事上の價値云々である、太平洋問題の一因も此の邊にある。

（二八頁へ）

再び滿洲朝鮮を訪ふ

久布白落實

一

大正拾年の春でした、矢島先生八十九歳の御誕生日が終つて間もない時、滿洲から滿鐵の紹聘が矢島先生の下に達しました、御同伴する人誰れ彼れと云ふ内に當時家庭の事情から未だ一回も長旅行に出た事の無い私が、其選に當りました、然し乳呑子を始め三人の子供を母に托して出る事に可なり躊躇しましたが、終に意を決して、出立しました、當時の同行者は矢島先生を始め、竹崎達子姉、栗塚龍子姉と私の四人でして、行きがけに先生と二人は先づ、四國に渡つて高知に兩三日を過し、此處で彼の賀川豐彦氏と一緒に高知支部の大講演會に出席しそれから戻つて神戶より四人連れで船出して、大連に着き、驛々を步き、長春から引き返して、朝鮮に入り釜山から北九州の諸市を訪ひ、中國に入つて吳を訪れ、更に神戶、大阪、京都で用意せられし、大集會に出席し、丁度四十二日間に二十二ヶ處を訪ひ、始めて滿洲朝鮮に十數ヶ處の新支部を得て歸京しました、此れは先生としては內地旅行の最後であられ、私としては、先づ最初のものと申してよかつたと思ひます。

二

歲月は遠慮なく流れて行きます、其後先生は、英國に一度、米國に一度、最後に永遠の國へ旅立たれました、栗塚氏は震災の折、彼の時を振出しに支那より連れ來られし廿名の少年少女の內の、一人の少女と共に本所の燒跡に、遺骸も見出されぬ最後を遂げて仕舞はれました、竹崎姉は今や床に臥して居られます。當時子僧役で參つた私は、取殘されて今度はむしろ年役の方へ廻ると云ふ激しい移變の變りやうです。

今年の旅行は大會の頃からポツ〳〵話が始まつて居りました、追々と議が熟して、終ひに七、八月のプログラムとして實行する事になりました、五月末守屋姉は南洋に向はれ、六月中旬矢島先生は天國に出立、私の神戶出帆は七月廿六日でした、南洋の旅行を終へて二ヶ月ぶりに、守屋姉の一行が橫濱港に入られた日でした、出つ入りつ少さき我等の仲間でも中々頻繁の世となりました。

三

出入りと云へば、十八年前に、米國の王府で滿一年の赤子を日本の祖父母の下へ送つたマス子が、十八歲の立派な娘となつて女學校を卒業して、リビングストンの父母の下へ歸るとて、私の家から送り出されたのもこの頃です、日本は廣くなり、世界は狹くなつた氣持ちがつく〳〵と致します。

夏休みの事ですから息子等も捨てゝ置けませぬ、幸に學生割引の有るのを利用して、長男丈けは荷物持に同伴する事に致しました、其代り凡べて乘物は、一等は二等に、二等は三等に繰下げの覺悟で、大連に着きました。飯田部會長を始めとし、十數名の兄姉は、暑にもめげず出迎へて吳れられます、大連柳町の飯田氏の新築の御宅に着きました。此處に一週間、息子の方は星ヶ浦の千葉氏の御宅へ泊めて頂きました、前後を拔いて滿六日間、プログラムの通り動かして頂きました、御馳走になつたり、集會に出たり、此處で滿鐵の方のプログラムも定り、八月四日には大連を出て旅順に向ふ事になりました。

四

大連で一行は四人となりました、一人は婦人で硏川むくゑ姉今年より滿洲部會幹事として盡す事を飯田部會長に申出でられた方です大連旅順に於て已に十七年間敎育に從事せられし方で、今後は獨立して、旅順工科大學の學生の爲めに一つの會を經營せんとして居られる方です、他の一人は、靑年で、學生排酒聯盟の幹事、岡田七雄氏です、岡田氏は、今年八班に別れて全國に遊說せられし內の滿鮮を分擔して出でられた方で、丁度朝鮮を遊說し終つて、これから滿洲へ向ふとして居られる處でした、折よくこゝで落合つた事を喜んで、一行四人出立する事となりました、女組は小さく、男組は大きく、女組は滿鐵提供室等パス男組は三等と云つた妙な取合せて、納

同六尺一寸の岡田さんと四尺六寸の私は、中の二人を挾んでいゝ組合せとなりました。

五

旅行は一日々々と進んで行きました、夏の滿洲と云つて、歩いて居れば黒焼きにでもなりさうに云はれて來た滿洲は、中々よい歡待振りを示して呉れました、暑さと云つても東京の暑さに比して左のみ苦しいとも思ひませぬ、殊に朝夕の冷しさは格別で、滿洲萬歳を稱へ度い位ゐです、旅順を振出しに、瓦房店、鞍山、遼陽、奉天、撫順、四平街、鐵嶺、公主嶺、長春、安東縣を次ぎ〳〵に、各々半日一日、一夜づゝの集合を爲し十二日夜は長春を出で、南に向ひ、岡田氏とは長春で、横川姉とは安東縣で袂を別つ事となりました。

前回の時は、海城に一泊しました、此處で八十九歳と八十四歳の老姉妹は久し振りの對面と、同時に御別れを爲られました、今度はこゝの有名な豆腐屋河瀬氏も居られぬので、此處は通り抜け、他に數ケ處、前の旅行に見舞はぬ所を見舞ひました、前回の時から今回まで約五年間に、變つた方も少く有りませぬ然し、多くは一層根據を造り、落付いた氣持で住んで居られるのは、何とも云へぬ幸福です、内地へ行くと呼吸がつまる、東京は殊にそうだと申される方も少くありません、特に婦人の方々がそういふ考へになられるのは、民族發展の前兆として心強しく思ひます。

六

朝鮮は、大水、暴風、洪水と新聞や噂にきいて、無事に通れるかと案じながら入つて行きました、奉天を出ると案の條汽車は橋頭で山崩れの爲めに、九時間の停車をしました、京城から先きも、途歩聯絡と云ふやうな處も在りました、然し新義州を始めとして、京城仁川、鎭南浦、平壤、太田、大邱、次ぎ〳〵に準備はとゝのへられて居りました、殊に大邱などは四名の牧師方が、合同して、ビラ配り、ラッパ廣告までして集會を準備して下さつた事を伺つて、誠に恐縮に存じました、お蔭で當夜の集合は、この行の内で最も盛なるものゝ一つでありました。

釜山は支部長の轉任後淋しい有様になつて居りましたやうですが最初の支部長藤澤トラ姉が、安武姉と共に迎へ且つ送つて今後の再興を誓れたのは誠に心強く思はれました、最初の華やかな發展も中途消滅の姿にまで衰微して來る時が在りますが、此際、唯一人でも眞にこれを育り立てる決心の人が有れば必らず復活します、私は眞心から釜山支部の爲めに祈を籠めつゝこの海峽を越えました。

七

東京を出たのは七月廿日、それから出帆までに、三重縣及び近畿の數ケ處を林姉と二人で歩きました、歸途又、林姉を訪ふて大阪に一日を過しました、この行、出掛けにも亦歸りにも、大阪堂ビル前の林龍太郎氏の禁酒事務所を訪ひ、送別に洋食、歡迎に日本食の馳走を受けました、我國のシカゴ、大大阪市に男女の林兩將を有する事は、國家の爲めに祝意を表せずに居れませぬ。

今度は前後の行程卅五日、訪問せし處、廿六ケ所、最後の別府市の三叔父さんなどは、いづれも日本一と思ひました、延合大小六十回此間中、一行の誰れも、何の故障なく、炎暑の旅を續け得し事は、妙なる恵みと感謝せずには居れませぬ、又行きも歸りも、行く先き先きに、矢島先生を見る心地で歩きました、靈の先生は、肉の先生よりも、更に自由に、我等に伴はるゝ事を思ひます、廿五日豫定通り歸京、定めの如く、この日から、今秋の仕事始めに列席し得ました、滿洲朝鮮の諸兄姉に、厚き感謝を捧げます、又内外より祈を以て、後援せられし兄姉に、謹で感謝を捧げます。滿鮮の地に祝福あれ!!

大正拾四年九月廿二日

會員募集月

會員倍加運動の十月

△全國支部七千の會員各自が、一人づつの新會員を是非勸誘すること。

△方法は隨意です。あなたの行かるる所何處にも、又何時でも、新しき同志の友を我等の一人とする爲に心がけて頂きたい。

日本學生排酒聯盟のキャムプ

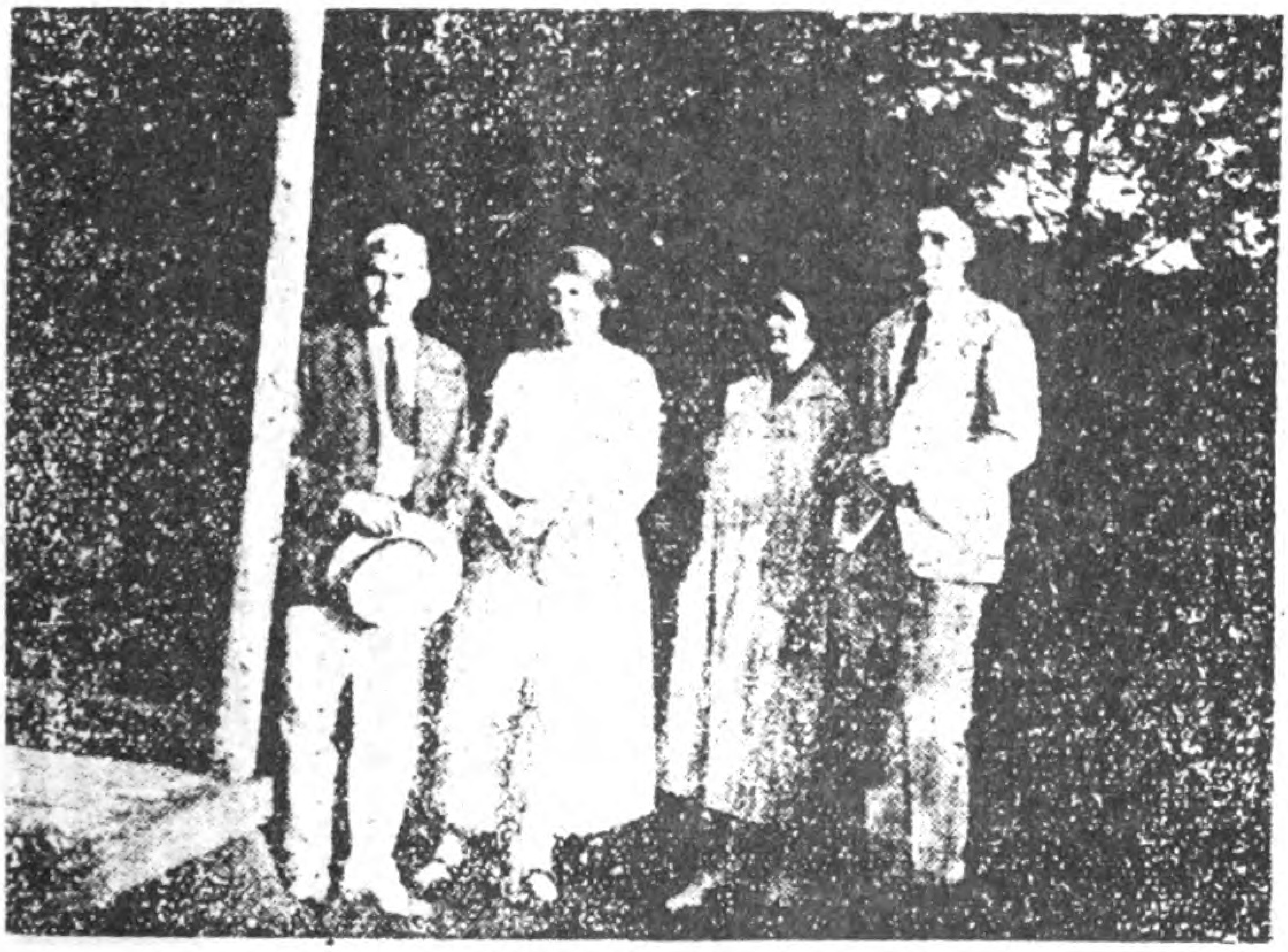
元山龍之介

禁酒運動者、殊に學生にとつて最も偉大なる後援者である、大恩人Mark R. Shaw（マーク・アール・シヨウ）先生が愈々任滿ちて、今秋三星霜親まれし我日本を去り米本國に歸らると傳へ聞えて、吾等は思はず緊張せねばならなかつた。

先生の在日中の吾等が先生から敎へ導き授けられたものは實に言外のものである。けれども未だ〳〵足りぬ吾等は其等を全部吸收し、消化し、咀嚼して全く我物となし終えぬにこの聲を、噂を耳にした時に強い衝擊を感ぜずには居れなかつた。

もう一層の、もう一段の努力奮鬪をせねば、使命あつて來朝された先生に濟まない、餘りに自分等は不甲斐ないと自ら鞭つたのであつた。

其後シヨウ先生の吾等のために開いて下さつたSaturday Meetingの時に、吾等仲間の間に何度幾度と、先生の去らるる前に、先生の蘊蓄を傾けての（Prohibition Lecture）禁酒講義を受ける機會を作りたいと計つた事か。



右端より　シヨウ先生、令夫人　左端より　ヘニガー先生、令夫人

幸ひ先生は吾等のこの意氣を掬まれて、或日今夏私は輕井澤に行きますから、休暇を利用して皆輕井澤に集つて、夏期講習會の樣なものをやるのでしたら、私はどんなにでも便宜を計つてやりませうと提議されたので、吾々は機を得た。之等の話をずん〳〵進めて輕井澤雲場ケ池畔に日本學生排酒聯盟のキャンプを七月十六日より一週間するまでにした、少年禁酒軍としてこのためにキャンプを提供し得た事は欣快であつた。

七月十六日全國の各大學專門學校から集ふ覇氣滿々の若人三十六名の原始的キャムプライフ（天幕生活）は池畔の林間に天幕を張り上げると共に始まつた。

その夜の焚火焰々と燃えるほのほ、一行の意氣と共に彌々昂る。各自の自己紹介、東からも西からも集ふ同士は最早十年の友の如。

村長の推薦。日本國民禁酒同盟、主

事の小塵完次兄、推されて村長の挨拶。「我等この學生排酒聯盟キャムプのモットー治めず治められずでありたい、こゝ一週間は全く俗塵を離れ、嘗つて我等の夢みしユートーピヤの生活そのものをこゝに現出したいと希ふ」と。名挨拶にてありけり。

曉鶯の聲に夢醒めて、草露ふみわけて焚木拾ふ朝、男世帶の食事の仕度馴れぬ事乍ら面白い、總て鮮新の氣に充ち充つは、巷間にありて浮世風に弱らるゝ思ひと隔る幾何。

靜かな池の面に姿影を映じ乍ら三々五々、緋鯉、眞鯉の悠々泳ぐ様を賞で、綠樹の蔭を辿り、坦々砥の如き（高貴の方の御避暑のために斯くは美事な路となりしと傳へきく、されど嬉しき事也）道を踏みしめ〳〵歩む長閑けさ、離れ山になほ、强かれと勵まさるゝ思ひして朝な〳〵夏季大學講堂に通ひ、ショウ先生の通譯なしの講義を傾聽し、なほ、輕井澤在留の諸名士に依賴して諸卓說を吐露し頂きしは幸甚なりき。

安部磯雄氏の産兒調節、尾崎咢堂氏の普選と今後の政治等は我等の興味をひけり。

毎夜のファイヤの集ひは異論風發、こゝ許りでは納らず、遂々近村に講演遠征をやる。



思出深きキャムプ・ファイヤー

小諸の町の夜の集ひに、時間前、一行は路傍宣傳をやる。

白首が悲鳴を擧げて一同の意氣益々さかん盛大なる講演を濟ませて歸幕せしは夜半一時過。

岩村田村での講演會程吾々一行の血をわかせた事はまた少い、こちらは熱し切る、聽集は反比例して冷靜に〳〵と冷え切る一方である。主催側である吾々は煩悶せざるを得なかつた。けれども慰めてくれる貴いものがあつた。警察署長兩角氏が當日禁酒會を組織せん事を宣言され、つゞいて二名の方が同意を表して下さつた事であつた。我等の志は立派に樹つた。

日本で最も理性的に發達してゐるといふ長野縣の中でもその雄といはるゝこの岩村田村で、この成績を擧げたのは殊勳だと小諸の禁酒會の方々に讃辭を投げられて、漸く自ら慰め得た、苦しい樂しい思ひを懷にして、深更の星を眺めてキャムプに歸つた事もあつた。どこまでも打算なしに純に行動する彼等

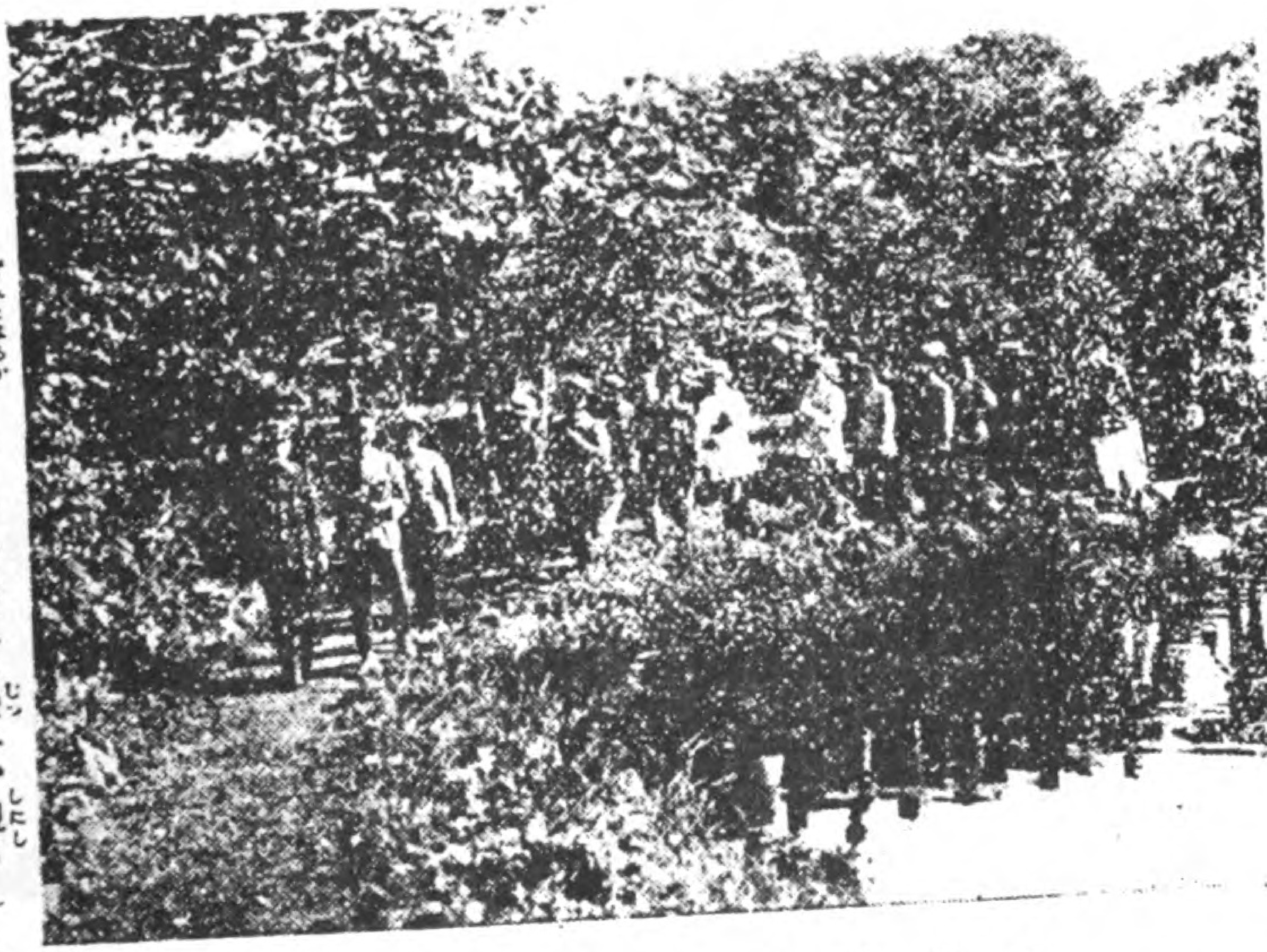
學生を見て私は喜びに堪えなかつた。彼等は眞劍である。持つてるものを全部出して闘ふ。生命がふるふ。

國民排酒同盟の永田主幹と共に、小諸、岩村田、御代田、野澤町の小學、女學生に二日に亘つて酒、煙草について講話が出來た事は、愉快に堪へぬ。特にこのために骨を折つて下さつた各禁酒會の方々、兩角警察署長には深甚の感謝の意を表せざるを得ない。

二十二日ショウ先生の別莊に Tea Party に一同招れたのを最後に、東と西に別れればならぬ事を知つて、逢ふ日の餘りに短かかつた事を今更のやうに嘆じた。

其夕のファイヤーこそは忘れられない深い深い思出である。一同の禁酒運動に對する態度は燃ゆる烽火の眞紅の焔よりまた熱し、別れの所感を述る面々の吐く一言一句は悲愴の想さへにじみ出、思はず眼に露宿る。語れども〳〵此夜は盡ぬ夜である、焚火は盡てもはや加ふべきものもない。殘火を擁いて尙語る。一隅より螢の光。窓の雪とたへざる歌聲湧く、一同和して三唱、語る夜の尙長からん事をかこちつゝ。最後の眠りに就く。

一週間の短日の集ひ、時間は短かかつたが獲物は大きかつた。我等の精進すべき道はまだ〳〵前途遙である。吾等互に睦み、親うして、此道を進みたいと希ひつゝこの稿を擱く。



湖畔を辿つて講堂へ

（二三頁より）

米國は此南洋中、ガム一島を領し、米國の本領を發揮して小さい島に四百臺の自動車を有し、水道を設備し、氷を作り、暑さ知らずの生活に島民も浸つて居る、島民はサイパン島と同じく殆んどチヤムロ族である、彼等は往來して、日本委任地としてのサイパンと、米領のガムの比較を樂しんでなして居る。

南洋を通じて人力車が數臺、氷は只サイパン島にあるのみ、それも一斤壹圓五十錢、島民の幼稚な頭腦を以て比較するには最もわかりやすい問題が提供されて居るわけである。

各島に於て申し分なき迄便宜を計て視察させて頂いた支廳を初め心から旅のものを慇懃に迎へて下さつた同胞の諸兄姉に紙上を以て厚く御禮を申上る。

歸る時願ひにまして島の產物海の幸に至るまで頂いた事をあはせて御禮申上る。お土産物は六十六個、横濱からトラックに乘て東京迄もち歸りました。南洋會を開て多くの人々に供覽しました。深き感謝と共に諸兄姉の御健康を祈る、終りにまさのおかげで我が南洋を視察し得た事を神に感謝する。

時事

婦人禁賣條約問題懇談會

わが政府が一九二一年に締結された婦人兒童賣買禁止の國際條約に對して、

(1)この條約をわが植民地に適要しないこと

(2)賣買禁止の標準となる年齢滿二十一歳を十八歳に引き下げる事。

の二つの除外例を留保して、條約に加盟する事を聲明したので、樞密院では先般來永らく問題となつてゐましたが、民間にも、當然斯樣な國辱的除外例を政府がとつたことを憤つた人々が多かつたのです。婦風會が、非常に敏速に此方面の運動に起つたことは勿論人人の認むる所ですが、私共は、我等と方面を異にする有識者諸氏によつて、九月十四日(月)午後二時から、丸の内の日本工業俱樂部に於て有益な懇談會の開催されたことを非常に喜ばしく思ふのであります。發起人としては、井上哲次郎、金杉英五郎、浮田和民、澤柳政太郎の諸氏、贊成人として阪谷芳郎男が起たれました。

當日は林毅陸、金杉英五郎、鎌田榮吉、澤柳政太郎、高島米峯、浮田和民、根本正、井上秀子、山田わか子、西川文子、今井嘉寛、日疋信亮、小崎弘道、同千代子、河井道子、ガントレツト恒子、久布白落實、原胤昭、塚本はま子、益富政助、松宮彌平、山脇房子、宮田修、湯淺治郎、安井哲子、松井茂、米田實、井深花子、和田富子、守屋東、栗本庸勝、鵜崎庚午郎、林歌子、川崎巳之助、同正子、山内輝子、渡瀨かめ子、松宮しん子、杵川せき子其他百八十餘名の出席者があり。

左の人々が順次起つて、各方面から、人身賣買の非なるを說き、他の文明國と同一なる條約を結ぶべきことを高調されました。

婦人の立場から	塚本はま子
所感	林　毅陸
教育家の立場より	山脇房子
社會事業家の立場より	松井　茂
實例の一二	守屋　東
所感	安井哲子
佛教徒として	村上專精
基督教徒として	鵜崎庚午郎
關西婦人を代表して	林　歌子

懇談の後左の決議を滿場一致可決しました。

婦女禁賣條約問題懇談會決議文

前文

醜業を營ましむる目的を以て、滿二十一歳以下の婦女を國際的に賣買するは、奴隷制度の遺習にして人道上忍ぶ可らざるものなるに付。

之れが禁止を國際的に實行せむとする條約に歐米諸國は言を俟たず、今尚稅法に權を回收し得ざる支那國すら無留保加入を爲せるに對し、帝國獨り列外に立ち僅に風土文化の異る暹羅印度と提携して有保護年齢の低下を求むるは、自ら卑下して特殊劣等國に伍するものにして、我が國民の廉恥心を中外に誤解せしめ、國家の體面を汚損すること甚しきに付。

大正八年巴里媾和會議に帝國全權の提議して未だ成らざる人種平等案、及び中に含める主意は、今後我帝國の萬難を排して達成せざる可らざる所なるに付。

然るに今や此種人道主義の國際條約に如上の除外例を求むるは、是れが由々しき障礙にして累を後日に貽すこと大なるに付。

且朝鮮、臺灣、樺太、關東州等新附の地域を該條約の適用以外に置くは、折角に我保護補導を仰ぐ其地人民を劣等視し特に其地年少婦女の信頼に戻る不親切の措置なるに付。

尚、不逞無頼の徒をして、醜業を營ましむる目的を以て内地の婦女を先づ彼地に誘引轉住せしめ、再轉、海外に渡航せしむる機會を索めしめ爲めに條約加入の主要目的たる内地年少婦女の保護をも危殆ならしむるものなるに付。

吾人は爰に左の決議を爲す。

決議

一、婦女賣買條約加入に付帝國政府の附したる保護年齢低下に關する留保宣言は斷然之を撤回すべし。

二、右條約の適用地域より朝鮮、臺灣樺太、關東州を除するの留保も亦同様斷然之を撤回すべし。

右決議文は滿場一致を以て可決され、更に英譯したものは直にゼネバの國際聯盟總會に電送されることに決定したのであります。

尚、この決議文は諸新聞によつて翌十五日の朝刊に公表されたのでありますが發起人會で申合せの結果、右決議文は九月十六日の本會議前に樞密院と内閣に送ることとなりました。

未成年者飲酒禁止法勵行の請願

請願書

日本國民禁酒同盟では八月卅一日東京に於て禁酒宣傳の大運動をなし、九月一日内務大臣に宛て理事長長尾半平氏並に地方代表者の記名調印を以て左の如き請願を致しました。

未成年者飲酒禁止法の徹底的勵行を切望し玆に謹んで請願いたします。

理由

我が國民は毎年十五億圓の酒を飲み、六百萬石の米麥を徒費して、食糧の缺乏に苦しみ疾病犯罪の増加に惱み、産業は萎靡し、人心は荒廢し、あらゆる方面から社會生活の不安に脅かされてゐます。今日我が國が非常な難局に陷つてゐる重大な原因の一つとして、その背後の飲酒に潜み居ることは、何人も否み

醜い事實であつて、これが救治の實際策として、まづ第一に禁酒を斷行すべしとは、等しく天下の認むるところであります。而して、この輿論の趨くところ、すでに大正十一年に於て未成年者飲酒禁止法となつて現れ、同年四月一日よりその實施を見つゝあるのであります。

未成年者飲酒禁止法の眞精神は、未だ飲酒の習慣無き未成年者を酒害より保護してその自覺を促し、遂に將來の國民をして完き禁酒者たらしめんとするにあり、その良く勵行せらるゝと否とは、帝國將來の安危に重大なる關係を有するものであります。かの海軍々備に於て五・五・三の比率にある英・米・日三國が將來の國力涵養に備ふる努力の點に於て何程の比率を示し居るや、禁酒國アメリカ及び禁酒國たらんと努めつゝある英國と飲酒國日本との二三十年後に於ける國力の相違は、國民體力の一點のみについて考ふるも、うたゝ寒心に堪えぬものがあるのであります。

また國内の實情に見るも、人心やゝもすれば驕激に走り、未成年者にしてカフェー・バー居酒屋等に出入して飲酒に耽る者少なからず、殊に近來頻々たる暴力沙汰刄傷事件の續發が多く酒毒に禍されたる青年客氣の致す所なるは見逃すべからざる事實でありまして、法あるもこれを勵行せず、次代國家形成の重要素たる青少年を、日夜徒らに酒毒に曝しつゝあるが如きは官民の等しく猛省せねばならぬ點と存じます。然るに實施後日尚淺き爲めか斯法の精神往々徹底を缺く憾みあり、然もかゝる法律輕視の風は惹いて「國憲を重んじ國法に遵ふ」國民道德の大本をも損ずるに到るべく、旁々斯法勵行の要今より急なるはありません。仰ぎ願はくは閣下此點に明鑑を垂賜ひ鋭意未成年者飲酒禁止法の貫徹に努められんことを切願致します。

大正十四年九月一日

日本基督教女子青年會總會

創立廿年の今日、既に五大都市に市女子青年會を、又、全國廿八の女學校に學生青年會を有し會員六千、一ヶ年の經費九萬圓を算し專任幹事内外人共に四十餘名に達し、我國青年婦人の教導に力を注ぎつゝある日本基督教女子青年會第一回總會が、來る十月十六日から十九日迄、静岡縣御殿場富士岡莊に於て開かれることになつてゐます。我々婦人の手を俟つ事の多い現今に於て、全國から參集する代表者によつて議せらるゝ問題は亦非常に有益なものであることを思ふのであります。

このごろ

東

小さい部屋ながら、自分専用のものは尊い。四疊にたらぬ私の室は、東に窓がある、西に出口がある。すぐ北側は宿生凡てが必ず通らなければならぬ階段である。二六時中、此段が幾百幾千回、踏みならさるゝ事かしれない、今では私もなれて、誰の足音が、どんなかすかなあゆみでも、其主を知る事が出來る迄になつた。南側には戸口が二つ、一つは矢島先生のお室のあつた其室に、一つは先生の湯殿とした室に通じて居る。

仰いで天井を見れば、家中に光を輝らす、電燈の安全器がそなへてある爲幾本かの電線は白い天井紙に、クツキリと直線模樣に畫いてある。斯うして今更私の室をながめて見ると、丁度船のキヤビンか、都合つけた機械部屋の趣きがする。でも私にとつてはなつかしいまた、心にも身にも一番の頼を與ふる部屋なのだ。此天地に我身を入るべき、最も尊い我がやすみの場所だ。今朝も四時の時計に醒めた、室外をながめた、杉の木立に新月が香ふて居る。起きた、ジツト見入つた、靜かな朝だ、おのづから心は祈る——神と人とから預けられた我仕事、ホーム、禁酒事業、小學校への禁酒運動、婦人兒童の賣買禁止——娼妓の娘——。神よ導き助け給へアーメン。

机に向つてハガキを書いた。一つは無斷で兩親が奉公先から連れ歸つた娘と、其娘の爲に骨折つて下さる二宮夫人とに。

火曜日位曜の朝から、家中の娘と一緒に靜座をする日になつてゐる。只さへ動きがちな娘達に三十分靜かに坐らせる事はほんとに必要な事であつた。家々でも毎朝して居るけれど、特に此二日は家中一つ處で坐る事になつてゐる。またうす暗い時に、無言で禮堂に集つて來る、夜は早く寢、朝は早く起、これが一番いゝ實行である。

今日もお天氣がいゝ、また娘等と働かう。

南洋から二羽のインコウを連れて歸つた、一羽は子供がよくならした小鳥だ、一羽は巣からとつたのを頂いて來た。羽根の美しい聲のやかましい小鳥だ。よく馴れて私の頭や額や背中などを飛び廻る、日本のモヅによく似て居る、此二羽が此冬を無事に過せるやう、今から氣にかゝる、時々庭にはなしてやる、よく飛ぶそしてまた籠に歸つてくる。可愛い小鳥だ。インコウと一緒に二羽の鳩を持つて歸つた、一羽は殘念ながら死んだ。一羽は哲學者のやうな鳥だ、島民がわざ〳〵遠い處を持つて來てくれたもの、雛だつたがコロコロと鳴くやうに成長した、通ずる言葉はないが、斯うして朝夕一緒に暮すと鳥とも思へない。

「トーチベアラー」を讀みて（六）

ガントレット恒子

萬國婦人矯風會

今日の國際的運動は、世界の婦人の公平なる理想と聰明なる計畫より生れ出たものと云つても差支ないと同時に、萬國婦人矯風會が世界の各國民を白紐を以て結び付けて、深い廣い太平洋、大西洋を横ぎつて、望と、愛と、平和の電線を張つた事は、此世界的人類愛を高調する時代を齎らす上に一大勢力であつたと云ふ事が出來るのではあるまいか、世界禁酒、世界純潔、世界平和の目標に向つて、勇進した婦人の團體は、フランセス・ウヰラードの指揮の許に、一大勢力となつて、一八八三年に、萬國婦人矯風會となつて表れた。過去四十餘年の間に、五十有餘ケ國の婦人が驚くべき團結力を以て聯盟した、此事實は如何にかゝる運動が、あらゆる世界の國民に必要と認められたかを證明して居るのではないだらうか。

標語

「神と、家庭と、世界の爲め」此大なる標語の許に、結束して立つ團體は、世界婦人の共和國である、此處には、人種的區別なく、宗門、宗派の別を立てず、政黨政派に偏することなく、女子も男子も同等の市民として認められ、只一つの目的即ち世界に新天、新地を齎らすことを目的とする、一大家庭である、白リボンの結は、實にあらゆる改善、進歩を意味するのである。

ウヰラード女史の幻影

一八八三年に合衆國西部に大宣傳旅行を試みたウヰラード、ゴールドン兩女史は、一日桑港に於ける支那町を觀察した、其當時桑港の支那町は、實に罪惡と苦痛の恐しい巣窟であつた、之を見た兩女史は、重い責任感に打れた、世界は一つである、皮膚の色が異つても言語が違つても、東西皆神の子である、惡魔の手は凡ゆる神の子の上にさし伸べられて居るではないか、自分の住む國丈を淸めて其で滿足する事は、只其が身勝手であるばかりでなく、自衞の點から考へても、不用意な事である、太平大西の兩洋が東西の半球を分けて居るとは云へ若し此大きな水が一度干いたとしたなら東西の分け目が何處にあるだらう、山の高さも、海の深さも、人間の心の結びを永遠に斷つ事は絶對に不可能である、我々は、大洋の隔を押のけて世界的融和を齎らさればならぬと考へ且つ企てた、「世界を我が教區、善をなすことは我が宗教なり」と歌つた詩人の心持は確に兩女史の氣持ちであつた。

パリグラツト・ペチシヨン

（多國語請願書）

一八八四年に、ウヰラード女史は、レスト・カテージに於て、彼の有名な、「パリグラツト・ペチシヨン」を起草し、之を各國元首に宛て

捧呈し其實效を得ようと企てた、法律は決して、萬能ではない、然し法律は其國民の道德の標準を示す、指針であると信じた、ウ女史は、次の請願を書いた。

各國政府を代表せらるゝ元首へ謹んで請願す

我等婦人は體質に於ては男子より弱きを自覺すると同時に、我等の心は强くして、各自其屬する、家庭と國家のみならず、全世界を愛し得るの廣さと深さを有する事と、明晰なる頭腦と、純潔なる心は、强健なる國家と幸福なる家庭の要素であるが故に此等に由つて世界の平和の招來するを信ず、我等はアルコール飲用、阿片使用及び不淨なる行爲は、家庭を亂し、社會を傷け、國家を恥かしむるものにして、世界に病苦と貧苦を來らす原因となり、罪なき子女をして彼等の當然有つて生れ出づべき、健康をさへ奪ひ去らるゝに至らしむを信ず、若現今の如く政府が之等の賣買を營業と認め、租税を課して、政府の歳費に充す事は、則ち彼等に與するものなることを證明するものなり、然るに國家は法律の制定によつて、社會の道德の標準を高くし、罪惡を行ふものゝ道を狹むる事は至難の事に非ず我等力なきを覺ゆる婦人は、各國の婦人の群を代表して、各國政府に向つて請願す、願くは、各國家は、其國民の道德の標準を、法律に由つて高め且つ、家庭と國家の平和を保證せんが爲め、酒類、阿片の賣買、其他文明の呪となるが如き罪惡的營業を、國家より排除せられんことを。

此請願書は、各種の團體、及び個人に署名を求めた、而して各國の國語に飜譯せられた、支那の漢字は固より、印度語、スペイン語、佛語、英語と、五十ケ國以上の國語に由つて集められた男女の署名は七百五十萬を數へた。

始めて此請願書が公式に發表せられたのは、一八八五年、ベルクユムのアントワープ市に開かれた、國際禁酒會席上であつた、一八九一年ボストン市に於ける萬國婦人矯風會大會にて歷史的ファニール・ホール及びトレマント・テンプルの壁を覆ふた長い〳〵純白の布は實に此數百萬の署名を縫ひ付けられた大きな請願書であつた。

一八九五年に至つて始めて、公式に合衆國政府へ、クリーブラント大統領の手を經て提出せられ、次いで同年、ロンドン市に於ける、萬國大會へ運ばれ、アルバート館に於て公衆の觀覽に供せられた、大會後數週日を經、ヘンリー・サマセット侯爵夫人の手に由つて、ビクトリヤ女皇陛下に捧呈せられたものは、二册の見事に製本せられた、アルバムに、請願書と署名書とを寫眞版にしたものであつた。

一八九七年に加奈太、トロント市に開かれた、第四回萬國大會を此請願書の布卷物が飾つたものであつたが、惜しい哉、ウキラード女史は、加奈陀政府に之を提出するの日を見ずして、昇天せられた、後、リリアン・スチーブンス夫人は、ウ女史に代つて、オメハ市の大會、或はパナマ大博覽會、メソテスト、開數百年祭式場に披露したが、今は此大使命を終ふ、ペチションは、世界に二つとなき、ない記念品となつて、保存されて居るのである。

最初の特派員レビット夫人

萬國婦人矯風會最初の世界特派員は、レビット夫人であつた、夫人は、賢明の聞えある、ボストン市の一敎員であつたが、夫人は矯風事業は世界的たらざるべからざる事を知るや、直に現職をなげうち、而かも自費を以て、世界大旅行に上つたのであつた、夫人の不撓の努力は八年の長き間續けられ、其費に要せし金額は、實は一萬六千圓と云ふ多額であつて其内一千六百圓のみが有志者の獻金であつた、夫人が見舞つた國は四十三個國で、旅行の道程は十萬哩以上であり、其間、一千六百回の集會に出席人員二百二十九人の通譯者を通

じて、講演し、八十六の婦風會支部と二十三の白十字會を組織したのであつた。夫人は七年の間殆ど知人の顔を見たことがなかつたと云はれて居る、夫人の如きは、實に婦風會ばかりでなく、世界的恩人として永久に記憶さるべきである。

他の特派員

特派員として、困難なる事業を各地に起した人々は、レビツト夫人の後、ミス・ストラウト、ミス・ノービル、ミス・キヤンベル、ミス・チヤリング、ミセス・レンエンメイ（支那婦人）ミス・ロハンスドーチル等が、南米、ビルマ、セイロン、日本支那等に働いた、彼等の功績は、或は地上に於ては、徴々たる酬を以て記念せらるゝであらうけれども、天上に於ては確に多くの聖徒の事となり、主の讃美が彼等を待つであらう。

萬國會頭

萬國婦風會々頭として、美しい働を殘して愛と正義に活きた婦人達は、英のウヤン・ブライト氏の妹、マガレツト・カライト・ルーカス夫人（一八八四年より一八九〇年まで）米のフランセス・イー・ウヰラード女史（一八九一年より一八九八年まで）英のヘンリー・サマセツト侯爵夫人（一九〇〇年より一九〇六年まで）英のカーライル侯爵夫人（一九〇六年より一九二一年まで）であつて、現今の會頭は一九二二年、フヰラデルフヰヤの大會にて公選せられた、アナ・ゴールドン女史である。

他の役員

ゴールドン會頭を助けて、副會頭として、デンマークのドクマー・ブリオー嬢、名譽書記として、英のアグネス・イー・スラツク嬢、加奈太のアランシ・アール・ウヰンソン夫人、會計として、米の、エラ・エー・アール夫人等がある。

大會

世界大會の開かれた、年と場所は次の様であつた。

一八九一年　ボストン市
一八九三年　シカゴ市
一八九五年　ロンドン市
一八九七年　加奈陀トロント市
一九〇〇年　エヂンバラ市（スコツトランド）
一九〇三年　瑞西、ジエネバ市
一九〇六年　ボストン市
一九一〇年　グラスゴー市（スコツトランド）
一九一三年　米國、ニウヨーク州、ブルクリン市
一九二〇年　ロンドン市
一九二二年　フヰラデルフヰヤ市
一九二五年　エヂンバラ市

ボストン市の第一回大會

ボストン市に第一回の大會が開れた時其集會所に當てられた處は、合衆國建國記念館フアニールホールであつた。曾て婦人のみの集會が開かれた事のない此「自由の搖籃」が婦風會の手で婦人に開放せらるゝ様になつた事は決して偶然な事ではない様に思はれる、卽ち之を搖り動したものは、[illegible]らしき姉妹達の手である。

此席上に列席して居つた、ヘンリー・サマセツト侯爵夫人は、ウヰラード女史に、會の主賓として、紹介せられた時、其美しい、氣高い姿を壇上に現して、壁上に揭げられた、數多き、革命戰爭の勇者の肖像畫と其上に交叉せられた、英米の國旗を熟視した後、「貴方が私に、「英國に叛旗を飜した米國の勝利を記念する、此館で話をせよと求められることは、迷惑ではないか」とお問ひになりましたが「私は決して左様ではない」と答へました、なぜな

れば、今日私共世界中の婦人は、米國が曾つて、ウヰーツ第三世に於て見出したより、より恐るべき強敵を、見出したからであります、私共の敵は實に、アルコール大王であります、私共は一致協力して、此大王を倒し、平和と、純潔と禁酒の世界を建設し樣ではありませんか」と云はれた。

夫人は座の溫まるいとまのないほど、諸名士の招待を受けねばならなかつた、其内特に記憶に値ひするものは、米國の國詩人ホヰチヤーの招待であつた、詩人は遠來の貴賓の平民的精神を非常に喜んで、夫人に向つて「あなたは、大英國の幾十代かの貴族の血統に生れたやんごとなき方、フランセス・ウヰラードは新英州の清敎徒の血をほこる人、私は唯自由を唱ふ一詩人に過ぎないのですが三人とも、世界に向つて、靈の自由を說き、人類向上に努むる點に於ては、全然一つの精神一の主義であるのを喜ばしく思ふ」と挨拶した。侯爵夫人の懇願を容れて、詩人が、フランセス・ウヰラードの胸像(アニー・ホヰトニー女史の手に成れるもの)の下に刻まるべく書いたものが次の詩であつた。其意は、

彼は罪惡の結合せる力の恐るべきを見たけれども、愛の力は罪と惡の其よりも強いことをも悟り得た時愛の結晶である女性を結ひかためて、あらゆる善き事をなすべく大集團を築き上げた。

一九一三年第九回世界大會は、ニウヨーク州、アルクリン市に開かれた、會頭、カーライル侯爵夫人は缺席を、よぎなくされた、夫人は其當時、米國婦風會々頭であつた、リリアン・スチーブンス夫人に、世界會頭の椅子を讓りたき希望を申入れた、けれどもカーライル夫人は大會の決議に由つて再選された而して、アノ恐しい世界大戰は、歐米の婦人に大會を持つ時と自由を與へなかつた。戰後一九二〇年、ロンドンに於て、戰爭の慘禍を深く味ひ切つた、疲れに疲れた婦人達は、再び東より南より北より西よりと遠く集ひ來る婦人達と手を握り合つて集つた、敵國と指さゝれた、獨逸の婦人達も、一つ主義、主張に活きる此團體に對しては、溫い同情と友誼の念の外何をも持ち得ないで、愛情の溢れた、書面を送つた。

日本よりは八十八才の老軀をいとはず、我我の敬愛する矢島會頭が、渡瀨かめ子、ガントレット恒子、愛孫鵜飼清子を携へて來會せられた、東でも西でも、國を思ひ、世界を愛し人類の幸福を希ふ心は、同じであることを證明せられた、世界の平和、人類の幸福は、此處から生れ出て來る事を信じて働く同勞者のかくも多くあることを考へると、感謝せずには居られない。

世界の平和、世界の純潔、愛、世界の精神を實現する爲には世界廢酒の必要をます〱深く認めた大會は、此目的の爲に奮鬪せんことを約して分れた。

只、抽象的に、平和を說いて居るものより一つ心に、一つ目的を以て、力一杯、ま近い仕事に盡して、一人の小い子供にでも、世界に仇する酒の害を數へること一人の若い男女に、淸き心は、力の源であることを悟らせることは、より力强い、徹底した平和運動であると思はないでは居られない。

成長（座右銘）

ガントレット恒子

九月

一日

天の父の完全が如く、其美しきが如くならうと、まごゝろより希ふ人、努むる人は、即ち神と共に歩む人であつて、祈る人は、知らぬ間に、神に似た者となるの幸福を有つ。

ミラー

二日

愛を以て眞を行ひ、長ちて、凡ての事、首なるキリストに效しめんためなり。

パウロ

三日

汝は主キリストの弟子であるか、さらば、主は「我は常に汝と共にあるなり」とさゝやき給ふではないか、過去も未來も、今日も、同じ恵の中に汝を包むと、約束し給ひし主の、常に共にある事を、自覺し得るに至る時、汝は自らの救を完ふするのである。

ハバガル

四日

成長する力は、決して外部より與へらるゝのではなく、我々の内部から出て來るのである、然し私共の内にみなぎる其力は、私共の裏に宿り、私共の一部分否全部となり給ふ主イエスの靈から出るのでなくてはならぬ。

五日

今生れし嬰兒の乳を慕ふ如く、爾曹心をやしなふ眞の乳を慕ふべし、此に由りて爾曹長て救に至らん。

ペテロ前、二―二

六日

硬い、冷たい、小石でも、大地の温まりと、日の光りと、恵の雨を甘受して、端座して居れば、終には美しい苔を、まとふものとなるのである。

七日

何んな事であつても、我々が切望する事は、若し其が正しい望みであるなら、必ず其は成長し、完成に至るのである。ノアの大洪水の時、濁水が地上をおほふて、何時引くべしとも見えなかつた時も、神のよしと見給ふ時が來た時、小い鳩は若葉を口にして船に歸つて來た、其様に時を待ては、必ず我々の希望は、新しい形を取つて、我々の懐に飛んで來る。

エラ、ウキルカクス

八日

知慧にも、力にも成長はある、恵と愛に成長することも、求めて得なければならないことである、私共の現在は、心の成長、靈の成長を求むることが、餘りに鈍くはあるまいか。

九日

困難、試煉、失敗は我々の成長には、なくてならぬものである、丁度、草木の成長に、風雨や、雪霜が必要であると同じ樣に。

バカム

十日

何時、如何して、何處で、私共は育つて行くのか、何人でも知る事は許されない、只神の恵の中に全くひたつて居さへすれば、何時とはなしに、大きく、深く、廣くなつて行くのである。

十一日

偉大な思想は、之を保ち得る心の持主にのみ與へらるるのである、其が其人の心から湧き出たのであつても、又他の人の言を聞いて覺つたのであつても。

ロングフエロー

十二日

何んな人でも、毎日々々、美しい繪畫や肖像を眺めて暮せば、不知々々の間に、美しくなる事が出來る、私共も日々キリストの聖顔を、みつめて居れば、屹度、キリストに似たものとなる事が出來る。

十三日

勝利は信仰ある者に來る、敵と戰ふ勇氣もなく、戰ふべき敵を決して有たぬと思つて居る人は、成長する、機會を有たぬ人だ。

エマソン

十四日

我は途なり、生命なり、と云はれた、主イエスは、我は世の光なりと云はれた、光に歩むものの、成長は當然なことで、又確實な事である。

十五日

時は何人にも公平に與へらるゝ天よりの賜である、けれども、時は過ぎ行けば、再び歸つては來ない、又未來の時も未だ私共の手の中にはない、使ひ得る時は只現在あるのみだ、此現在と云ふ時は、我我の大切な成功と成長への先驅者である。

アラビヤ諺言

十六日

人の成長は、其人の生きた年の數ではなく、其人の行爲と思想にある、時計の針の動きを幾千萬と算へても、心臓の鼓動を幾百萬數へても、高く考へ、善く行ひ得ぬ人は、短命と云はねばならぬ。

十七日

516

人の上に支配權を有つ人を、世は偉いと云ふ、けれども、眞の偉大さは、奉仕の生活から、生み出された力でなくてはならぬ。

クレーン

十八日

私達の成長に一番邪魔になるものは、自信のない事、人の風評に動さるゝ事、自分をのみ中心として、事物を考へ謀る事、誇りたかぶる事、人の親切を心から感謝せぬ事である。

十九日

私共の生涯は、只一度丈通るべき道であるばかりでなく、死の彼方には何があるかを確める力を、私共には與へられて居ない、然し信じて進むことは出來る。よし、行く手が死の蔭の谷であつても、牧主の手にすがつて、今歩む途を、最善を盡して歩くなら、必ず其先には善いものが待つて居る筈ではないか。

ルーズベルト

二十日

他人の成功や、成長を心から、喜び得ない人は、自分の成長が休止した事を證明して居るのである。

二十一日

我等は唯おの〳〵に賜れる恩に從ひ、なんぢらをして信ぜしめんとて動る者なるの外なし、されば、我は種ゑ、アポロは水そゝぐ、長る者は唯神なり。

パウロ

二十二日

樹に昇る人は、咲きにほふて居る花につかまるのでは、昇れない、手頼りの荒い、硬い幹や、枝につかまらなくてはならない事を忘れてはならない。

サカリー

二十三日

能く眠り、能く食し、能く動き、能く味ふ嬰兒は、能く成長する。笑は成長を助ける、一大祕力である。

二十四日

いまに大きな、偉い事をしてやるぞとりきんで、夢ばかりみて居るより、手近に横つてゐる、凡ての善き事を、片端から、やつて行く方が眞の成長を助ける。

ケーリー

二十五日

多くの人は、天國は何もしないで、なまけ放題の樂園だと思ふ、私の考へる又望む天國とは、何の拘束もなく、思ふ限り働き得る所でなくてはならぬ。

バンダイク

二十六日

働くものは必ず成功する、木の根も、

木の葉も、一秒でも其はたらきを休止したなら、其成長は、全く休止する。

二十七日

成功の祕訣は、愉快に自分の職務を果し、他人に親切と勵ましの言葉を以て交り、現在を輕んぜず、未來を信じて突進するにあり。

グローバー

二十八日

時は成長への最も良い侶伴である、汝の手を伸し、之を確かり捕へて、放してはならぬ、どんな、聖人でも、君子でも、時の助けなしに其域に達した者は一人もない。

チエスターフキールド

二十九日

空にそびえて居る樫の大木は、ドングリから生れたには異いないが、其ドングリは、必ず、希望を有つたドングリであつた事は、事實である。

オクセナム

三十日

神よ、我々は、各自、あなたの光を仰ぎ見る權利と自由を同等に有つて居ることを感謝します、只我々をして自分の我まゝな心より、湧き出て來る、雲霧に由つて、聖顔をおほひかくす事のない様に、日毎日毎の御導を希ひます、我々は、御惠の内に裕に、成長せん事を希つて居りますものですから。

オクセナム

愛

十月

一日

凡て其道を守る者は、神を愛するの愛、誠に其裏に於て完全す。是に由て我儕が彼に在ることを曉る、彼に在ると云ふ者は、彼が行みし如く行むべき也。

ヨハネ一書二、五

二日

出づるにも、入るにも、祈と讃美を以て、自らを整へ、備へなく立つ時、我等自らつまづくのみならず、他の小さき一人を危くする恐があるから。

三日

怒は他人を傷ふよりも、寧ろ、自らを損ひ、自らを死に至らしむる凶器である。

ポープ

四日

主は我儕のために、生を捐たまへり、是に由て愛といふことを知りたり、我ら

また、兄弟のために、生を捐べし、世の財寶を持ち、兄弟の窮乏を見て、反て憐施の心を閉る者は、何で神を愛するの愛其衷に存んや、小子よ我ら愛するに、言と舌とを以て、相愛する事なく、行と實とを以てすべし。　ヨハネ一書三、一五

五日

神の聖座の最も近くまで、我等を昇らしむる階段は、愛と、柔和と、謙遜と、隣人に對しての奉仕である。

六日

私は、他人の上に王者として立たんより、自らを制御する勇者たらんことを努めやう、人を支配し得る者は、先づ自らを支配し得る者でなければならぬ故に。

ゲーテ

七日

自然界の奢美を解し、之を愛賞し得る心は、神を愛し得る心である、神は自ら造り給へる萬有の中に存在ましますことは當然であるから。

八日

愛の中に懼あることなし、全き愛は、おそれを除く、そは懼は苦を有てり、凡そ懼るゝ者は愛を全備せざるなり。

ヨハネ一書、四、一八

九日

私の祈は、今まで「主よ助け給へ」「主よ恵み給へ」の連續であつた。今から私は、「主よ私をして實に汝を愛し、人を愛することを得しめ給へ、主よ私に眞の祈を教へ給へ」と祈らう。

十日

若し世人が、各自先づ、自分の心の改造を斷行するなら、世界の改造、社會の改造は、容易に完成せられるであらう。

十一日

主の笑のやさしさに、わがこゝろやわらぐ、　ポープ

主の聖顔をあふぐとき、わがちからいやます。　ルーセー、マセー

イエス曰ひ給ふ「我今日汝の家に宿らん」と。

十二日

世界の富の凡を有し、王者の權勢を握り得るとも、我に主と偕に住むの確信なく、主の聖聲を聞くの喜なく、主の愛に活くるの自覺なくば、我凡ては空し。

十三日

大きな愛とは自分の有つ物を人に頒ち與へるを喜となすのではなく、自分の全部を與へねば、滿足が出來ないのである。

ジョーンズ

十四日

我々は日光の中に、神の笑を見、風の中に神の祝福の聲を聞き、朝霧の中に、神の靈の輝きを見る。

十五日

すくひぬしなる、イエスによりて、あらはし給ふ
いつくしみは、うつせみの世の、なににたとへん
つたなきふでに、いかにうつさん
母のあいより、なほもあつく、地のもとるより
さらにふかし、ひとのおもひの、うへにそびえ
おほぞらよりも、ひろらかなり

十六日

私の心の底から、クリスマスを祝ひませう、そして、年が年中、クリスマスを祝つて居る心持で居りませう、過去、現在、未來のうちに生きて。

クリスマスカロル

十七日

信仰の伴はない愛は、舵を失つた船のやうだ。

十八日

人生の價値は、愛と勞作にある、其だのに、愛することもせず、勞作もせずに、活きて居ると思ふ人の多いのは不思議中の不思議だ。

トマス、モーア卿

十九日

あめなるよろこび、こよなきあいを、たづさへくだれるわがきみイエスよ、すくひのめぐみを、あらはにしめし、いやしきこのみに、やどりたまひね。

廿日

之でおまへは、世界の智慧を一身にあつめた、お前は今、空の星を一つ〲名指して呼ぶことさへ出來る、天の事も地の事も、深い〱大海の底の事も、神の聖手の業の、一つとして、お前に解らぬ事はない、只之に信仰と、德と、忍耐と、節制と、最後に、最大の愛を加へよ、さらば、お前の心の中に、パラダイスが形作られるのだ。

パラダイス、ロストより

廿一日

柔和は、秘れた力を指すのであつて、弱きを意味するのではない、靜止せし力の動く時、天地は振ふのである。

廿二日

神は和ぎを追ひ求むるものに、其聖顔をおほふことなくして、その叫ぶときにきゝ給ふ、彼は柔和なる者に近く居給ふ。

廿三日

人が自分を愛し、友情を盡してくれるのを嬉しく思ふ時、其人に其感謝の意を遠慮なく云ひ顯はす事は、其愛を倍加する良法の一つである。

廿四日

愛の重荷は、重いほど、私共を強くし、且つ幸福にする。

廿五日

神の名の爲に生命を捧ぐる殉教者の死は尊く、彼のために天には光の冠が備へられてある、然し、神のために、強く活き、愛の道を完うし得る者は尚神の前に尊く、勇ましき者として、數へられる。

エー、ビー

廿六日

日光は、どんな力も、權勢も、汚すことが出來ない、眞の愛を汚すことは、これよりも困難だ。

ミルトン

廿七日

人を愛するの愛が、深ければ深いほど、私共の心から邪念、疑心、私慾が取り除かれる、若し愛することに由つて、私共の生活が聖化せられないのなら、其愛は清い愛、正しい愛ではないのである。

廿八日

穩かなれ我心！ 我愛せし者を失ふの日、其が死の手に由つてあつても、我愛は、死に由つて完成せられ、美しき記憶となり、追懐の歌となつて、彼に從ふことが出來るではないか。

廿九日

無邪氣な愛、無邪氣な信頼、無邪氣な奉仕は、人生を照し、輝かす、最良のアークライトである。

キャンベル

三十日

道は遠かつた、荷は重かつた、人生は暗黑だつた、けれど「愛が降つた日に、道は指し示された、重荷を背負ふてくれた、人生に光が投げられた、「愛」の指の接觸は、生と死の意義をさへ全く變へて仕舞つた。

オクセナム

三十一日

人が若し私に、天の造つた最も尊い物は何んであるかと問ふならば、私は答へやう、其は、清い女の心、女の生命、女の愛だと。

メリー、ラスロプ

支部訪問の記

林　歌子

岐阜支部

生れた儘の岐阜支部を七月十七日に訪問致しました。同夜教會にて三四十人の集會、平田内務部長夫人が會員であらして其御照介にて女子師範へ參り夫人が婦風會員になられまして全家神を信ぜらるゝ恵を受けられしとて深き感謝を以て石崎醫院に迎へられ岩田支部長の令嬢の御病氣の癒に祈りぬ。

豊橋市

愛知縣下に於ける、名古屋に次ぐの大都會なるが未だ支部の設立なし。七月十八日夜昇天教會幼稚園にて集會は催され土地の有力者並に教會の牧師方御出席くだされて白きリボンの同地に結ばるゝ事を祈りて去りました。

濱松支部

七月十九日停車場へ着すれば直に市役所へ導かれて市長始め市の吏員の方の厚き同情にて市役所内に會の開かるゝ迄になりました事を喜びました。

加茂支部長の家に泊り、其夜はよく休ませて頂きました、役員の方々心を協せてよく働かれ、十人の子女を有せらるゝ支部長、支部は適任なる支部長を得て、縣は違ひますが、豊橋は一時間程の距離なれば豊橋にも支部の誕生して母心の活動の起らん事をと祈りました

名古屋支部

二十日午後、美似教會にて集會、矢島先生の追悼會は開かれ、鏑木牧師の御話もありて明年四月同地にて開かるゝ大會の相談も引續き開かれ、金城女學校々長市村與市氏も御出で下されて、明年の大會準備に付御懇切に勵まされました。前支部長奥澤登起子、廣瀬鎭子姉、三浦夫人、増田夫人等、鏑木支部長を助けて、全國の希望を繋ぐ多年の希望が、今や實現さるゝ大會によりて名古屋支部は恵まれ給へと祈りました。

四日市支部

熱心なる永田支部長の家に泊り、久布白幹事と一緒になり、紡績會社に、學校に夜分に豫定通り御用を務めて、

津支部

へ向ひました。市役所の教育課と合同主催にて市の議事堂にて開催され、費用も中分市より補助せられ、兎に角に、禁酒純潔の働きが市の仕事とかく迄結ばれしとは實に勝利、廿三日、日本基督教會にて各教會の牧師方も皆御出くだされて有志の午餐會中御別れ致して

京都支部

デントン先生の家に招かれて、宮森姉東部會長等の御盡力にて京都教會にて集會。來會者堂に溢る。

二十四日朝　久布白姉と共に大阪へ歸行、二三訪問をなし、晝は林禁酒會長の午餐に招かれ、夜は公會堂にて、伏石事件（小作問題）の報告會にて賀川豊彦氏歸朝第一聲の叫びを揚げられました。

二十五日　は天神祭に大阪朝日新聞社の訪歐飛行機、初風、東風の二臺は東京より飛來して愈出發せんとて婦人の責任と送迎に然る暑さの中を練兵場にて立ち續け歸られし方々を迎へて理事會を開きました。

廿五日　夕には愈々滿洲行の久布白幹事を神戸へ送りて祝福を祈る

（今回の旅行に少しく悩る病め藥を手に携へてどこでも御世話樣になり御心配もかけましたが、押し通して豫定の行程を卒へ無事なりしは體力の增進かと深く感謝致しました。

本部だより

八月九月

△第卅二回理事會　七月六日(月)矢島寮に於て

出席者　小崎千代、皆川せき、久布白落實、ガントレット恒子、ミセス・ポールス、古田とみ子、渡瀬かめ子、淺田みか子、小泉たれ子、宮川靜枝、川崎正子、十一名

開會の祈　小崎會頭、點呼、前回の記錄朗讀承認

相談事項

1. 婦人新報發行人名義變更の件
2. 理事補缺の件
3. 新町の家の事
4. 募金に就て
5. 夏休みの件
6. 千本木氏の手紙の返事に就て
7. 上海の事に就て　以上

午後四時祈を以つて閉會す

△第卅三回理事會　九月十二日(土)矢島寮に於て

出席者　小崎千代、ガントレット恒子、川崎正子、淺田みか子、皆川せき、宮川靜枝、ウエンライト、久布白落實、守屋東、渡瀬かめ子、林歌子　十一名

報告

1. 滿洲朝鮮地方旅行に就て。訪問せし所二十六ヶ所、集會せし處大小六十回、久布白落實
2. 南洋行、日數五十八日、病氣發生の目的にて行きしも巡回傳道を爲し得たり、守屋東
3. 本部會計報告

相談事項

1. 新町地所の件
2. 募金の件
3. 誕生日獻金の事
4. 婦人新報「矢島楫子記念號」發行に就いて
5. 寄附行爲の改正に就て
6. 本年度後半期の特別運動
7. 神田警察署長に感謝狀を送る事

五時閉會

本部日誌

八月

△廿八日(金)　樞密院會議に此の度の國際聯盟の婦女賣買禁止法案に就て審議されろ事を知り早朝より久布白幹事樞密院に出頭二上氏に面會意見を述べ來ろ、正午歸台、樞密院顧問官各々に電話を以つて申込む。

ガントレット副會頭市役所へ出頭。

堀、神の兩姉各新聞社へ先きの婦人賣買の問題に就き輿論喚起の爲め原稿を持ちて依頼し來る。

△卅一日(月)　東京禁酒會主催の禁酒講演會に應援のビラを撒く爲め小畑、堀、安原、野間元、神の諸姉炎熱と戰ひつゝ働く。久布白幹事鶴崎氏と共に加藤首相を訪問せられたれど果さず、神氏大阪よりのビラを待つ爲め東京驛に詰める、守屋氏禁酒講演會に於て講演せらる。

九月

△一日(火)　大震災の第二週年記念日にて諸所に記念集會開かる午前十一時神田の青年會館にて新蕗會開催本部より數名出席、ホームの子供等も出席者、大阪よりの禁酒ビラを配布。

午前中久布白幹事、濱口樞密院書記官長に面會、又ラヂオにて、東京大阪聯合婦人會代表として挨拶せらる、午後より本部一同大阪よりのビラを各教會其他に發送。

△四日(金)　生松、神兩姉樞密院顧問官、穗積、富井、珍田、有松、二上、山川、濱尾の諸家へ印刷物を持ちて行く。

川崎理事來訪種々この度の問題對策に就き熟議せらる。

△八日(火)　婦人賣買問題に就き皆多忙、川崎理事來援、午後廓淸會の村上、伊藤二氏來訪種々熟議をなす。

△十日(木)　廓淸會の役員及本會理事數名打合せをなす。

△十一日(金)　十四日の特別集會準備の爲め益富氏來會、午後一時より各新聞記者諸氏來會、山東泰子姉、佐々木民子姉來訪。

△十二日(土)　午前十時より婦人ホーム矢島寮に於て理事會開催。

△十四日(月)　澤柳、金杉、浮田の諸名氏の發起のもとに午後二時半より丸の內工業俱樂部にて婦人賣買問題懇談會開催、諸名士多數參會婦人側にては山本はま子、山脇房子、安井哲子、守屋東、林うた子の諸氏は講演せられ、當日決議せろ事項はセネバの國際聯盟本部へ打電する事に決し滿場拍手を以て贊成す、盛會なりき。

△十五日(火)　婦人新報出來、早速發送に着手午後より久布白幹事及川崎理事昨日の發起人へ御禮に廻らる。

△十六日(水)　婦人新報發送濟

活動

四日市支部

講演會報告

七月二十一、二十二日の兩日富地に於て講演會を開催致しました二十一日午前九時より東洋紡績會社にて久布白先生の御講演を願ひました、此日は同會社の休日にあたり外出する者あり、洗濯する者あり、思ひ〳〵に自分等のなすべき仕事をいたして居りました、其中から集つた者は三百五十名と聞きました、久布白先生は失業者と云ふ題の下に現今東京に於ける又先年御外遊の際目撃なされた失業者の實談をおのべになりました。

お話は非常に喜ばれ、主催者に於ても感謝の外ありません。

午後七時より市立圖書館樓上に於て林、久布白兩先生の講演會を開く事になつて居りました、丁度二十日の夕方富田東洋紡績より是非是非一場のお話が願ひたいと申込がありましたので支部長は林先生のお共をして富田紡績にまゐりました。富田紡績に於ては此日他の講演もある事に決定してゐたさうですが二ヶ所に分ち林先生のお話を願ふ事になりました。先生は現在日本の財政から、將來婦人のなすべき仕事、紡績工女の業は御國の尊い働きであると之亦久布白先生と同じく御熱誠こめてお話下さいました。此工場に於ても今までに見る事の出來ない工女の喜び又職工長も共に喜ばれました。圖書館での講演會は溢ちあふれるばかりの人で市内市外の男子婦人でありました。

久布白先生の「現代思潮と婦人問題」と林先生の「婦人の社會的位置」についての御講話は特に感動せしめました。

翌廿二日午後十時より女學校にて兩先生の御講演をねがひましたが最早や學校は夏休みではありましたが、暑さもいとはず集つて同窓會會員もそれに加へ各小學校長、小學校教師、學務主事の方々集ひて三百四五十名の盛會でございました。

各四ヶ所の集會がこと〴〵に惠まれ喜びにみたされる事が出來ましたのは一重に神樣の深き御惠みと御導きによるものと感謝いたして居ります。

大阪支部

矢島先生追悼會

七月一日林支部長の歸阪を待つて午後二時より開催す。讃美、祈禱を終り、林支部長より先生の生前及盛大なりし葬儀の模樣を語られ會する者一同今更ながら御高德の胸にひゞき敬服の念を深くす支部長並濟水種子姉の祈禱あり、三分間の默禱、主の祈りを以つて追悼會を終る。

閉會後は支部長より先生について數々の感想を、濟水種子姉より福音新報に記載されし田島牧師のお話しを、小倉文枝姉より先生の敎へ子として受けし御敎訓の數々を語られ一同盡きせぬ追憶の念に打たる。

中川知事夫人が最に式場にて御出席なし給ひしは來會者一同に深き莊嚴の感を與へられ感謝に溢れました。

呉支部

六月十一日午後一時半よりホームに於て例會開催

六月十八日午前十時よりホームに於て臨時常議員會を開く

一、矢島先生告別式に會長の外一名代員出席の件その他につき相談す

七月九日午前十時よりホームに於て矢島先生の追悼會を開く、司會者……十時菊子

一、開會の辭十時菊子　二、讃美歌二二三番　三、詩篇朗讀竹内貞女　四、祈禱則末直子　五、追悼の辭小野安子　六、讃美歌合唱有志　七、追悼の辭十時菊子和田姉の閉會の祈禱を以て終る

出席者五十名

七月十七日午後二時よりホーム

に於て臨時常置員會を開き次の事項に付いて相談せり

一、塚本濱子女史來奥を期として講演を御願するの件

二、誕生會員の件

當日出席者十四名

七月三十日(木)午前九時半よりホームに於て塚本濱子女史の臨時講演會を開く、司會者十時菊子出席者六十有餘名にて此頃になき盛會なりき

高知支部

第五回總會報告

五月七日午前十時開會禮拜後直に事業報告に移る

禁酒部報告

部長　島村　藤江

少年禁酒軍誕生し會員六十名を得禁酒會長中澤氏の御援助にて日曜學校より更に縣下小學兒童に大に禁酒宣傳をなす、尚今年度の計畫として出來る限り本部より寄贈の禁酒ポスターを活用すべく縣下小學校に講演を申込む積りなり。感謝會員十名、每月少年新報を寄贈する小學校三十、今後ますます小學兒童に禁酒宣傳の計畫。

社會部報告

部長　佐藤比知子

就職依頼三十五、身の上相談六十五　自由廢業一、子供養育世話三、一時救濟三十六、一時雇三十

篤志施療所　十三年度統計

投藥延人員六八〇三名、內全施療二九二五名、實人員五六八名、濟生恩賜金世話八、特別半額施療二〇名、行路病者五名

教育部報告

部長　横川　豊野

學生ホーム在舍生二十二名、中學校十三、商業學校二、工業學校六、高等學校一、本年出身者五、新入舍生六、學資の世話高等專門學校五、中等學校二、小學校二名、公開講演三、各種講演會にて講演せし事十四、學生ホームにて四十七回、修養會二、田川大吉郎氏及渡邊金三氏の日米問題眞相講演發行、禁酒部と合同宣傳ビラまき三回

會計部報告　部長島村藤江姉より昨年度決算及本年度豫算、財務部長佐藤比知子姉より昨年度財務の活動及本年度希望、家庭部長中澤すゞ子姉より家庭部新設理由及其働本年度の希望を報告あり横川第三十四回矯風會大會の報告をなす、一同非常なる感動を與へられたり、横川の動議にて施療所主任片山先生に總會より更めて謝意を表すべく委員として大崎梅子長野ゆき子の二姉を擧げ對矢島先生林先生城先生に御健康を祝すと打電の動議にも一同贊成可決佐藤姉の食前祈禱を以て報告午前日程終る

協議會　午後一時より

(協議事項)

一、義務金値上げに關する件

二、會員倍加運動

三、公娼全廢敎育運動(拾錢袋の件)

四、財務の働につき

五、家庭に於ける未丁年者禁酒法實行方法如何

六、風俗部の新設及部長として中澤姉を推薦の件

七、家庭部の働に就き

右協議事項に就き互に意見の交換あり最善の方法を議し廣川の祈禱砂川姉の挨拶を以て意に滿ちた總會終る。當日は高知新聞記者及禁酒會より中澤岡村の二氏出席力を添へられたるは感謝なり直に部會に移る。出席者四十五名

七月二十六日　追悼會

ホームにて

砂川支部長葬儀出席の爲上京ホームにて有志集り前會頭矢島先生の御寫眞を飾り靜に追悼祈禱會を催し偉大なる先生の御人格と遺業に就き語り獨殘されたる各會員の努力と祈りを以て先生の御遺意をはづかしめざらんを誓ふ。

大連支部

六月廿六日午後二時日本基督敎會堂に於て前會頭矢島楫子刀自の追悼會を濱田美惠子司會の下に左の順序にて開く

奏樂、讃歌、聖書ヨハネ十四の一——十二、祈禱、讃歌二四九、追悼の辭支部長飯田いせい、千葉ひろ子、講演香山長一氏(故矢島楫子師を思ふ)祈禱、讃歌三四二、祝禱、挨拶、奏樂

仁川支部

水害見舞報告

龍山永登浦地方の水災に際しましては會員諸姉の厚き御同情に由りまして本會として志ばかりの御見舞を致す事の出來ました事を感謝いたします。

七月十九日午後數名の姉妹方に依り食パン一千三百個を作製翌二十日、日本メソヂスト教會牧師並に同會員兩三名に托し混亂中の永登浦の余を見舞ひ殘金は朝鮮毎日新聞社に托して水災救護會に寄附致しました。左記收支計算御覧に入れます。

收入の部

一金四拾六圓五錢也

藤原、三好、渡邊文、山崎、佐藤、若松、芝、渡邊伊志、後藤朋子、荒木、秋山榮、秋山光、淺川、安井、松林、吉村、石丸、若葉、保阪、後藤孝、中島、荒川、青島、阪田加藤、中川、川崎、茂木の諸氏

計二十八人分寄附金

外に物品寄附小林藤原兩氏にて小麥粉一貫目及薪數束。

支出の部

一金拾八圓貳拾五錢也

蒸しパン一千三百個原料代

差引殘金貳拾六圓八拾錢也

水災救護會へ寄附

新役員選擧報告

支部長	芝	モト
副支部長	保阪	鍛子
修養部長	石丸	郁子
家庭部長	藤原	久子
財務部長	佐藤	きれ
法律部長	後藤	孝子
交際部長	秋山	榮子
風俗部長	芝	モト
會計	淺川	松枝
書記	芝	愛子

久布白女史講演會

久布白女史を迎へて左の通り開催し非常な盛會でありました。

八月十八日午前十時より女學校にて「新日本の建設と婦人」

同午後八時より公會堂にて「再び仁川の諸兄姉に見ゆ」

大正十四年八月

矯風會仁川支部支部長　芝　もと

臨時會計　淺川　辰三

盛岡支部

七月十六日午後一時より盛公會に於て、佐藤夫人司會の下に例會開催、出席者廿三名。種々事務報告あり。支部長は八月中會務を帶びて高橋是淸氏訪問、盛岡市役所警察訪問の豫定なり。七月中新會員六名を加へられたり。

京都支部

江州への講演旅行の御歸途中だつた、久布白落實女史、林歌子女史を特に煩はして、七月二十三日夜、盛大な講演會を開きました。

一、我國の興敗は婦人の覺悟と決心にあり　林歌子女史

一、生活改善の根本義　久布白落實女史

當夜は丁度京に名高き祇園のよみ夜でしたが外の賑はひに對して非常に靜粛な惠まれた會合でした。我々婦人にとつての急務社會純化についての懇切なる教へと暗示は會衆の心に深く銘せられたので御座います。

日頃はとかく怠り勝ちな我々會員も新たに力づけられ、今後の働きに一層の努力をなすべく更に勇氣づけられた事を心から感謝いたします。

Yajima, led by Mrs. Henry Topping, were rich in tributes of love and praise.

"The recitation contest was participated in by Alice Shively, Phylis Angall, Grace Madden, Dorothy Monroe, Margaret Iglehart and Abigail Hoffsommer. Miss Hoffsommer won first place and Miss Iglehart was second."

In his lecture, Mr. Shaw also touched on the amount of sake consumed annually in Japan. He said that prohibition is dependent upon education. He said the total exports of Japan in any year figured in Yen are less than the annual amount of money spent on sake. From this the conclusion was drawn that Japan would be better off economically if she gave away or sank in all her exports Yokohama harbor and stopped drinking sake.

July 29th 1925

My dear Friends,

I send you all my loving sympathy in the great loss through the Home going of dear Madame Yajima.

The World's W. C. T. U. Convention desired me to express to our Comrades in Japan their sincerest sympathy for we all were proud of Madame Yajima she was one of the bravest women we have ever known.

With loving wishes for your success and love to the little group of my Friends in Japan.

I am sincerely yours

Agnes Slack.

Glendale, Calif., August 5th, 1925.

To the W.C.T.U. Sisters of Japan,

Greetings from Los Angeles County W. C. T. U.

Dear Sisters of Japan,--The Women of Los Angeles County W. C. T. U., assembled in their quarterly Executive session, wished to send their love and sympathy to their sisters in Japan, for the loss of their great leader, Madam Kaji Yajima. We realize what a loss this must be, and though Madam Yajima has lived a long and wonderful life, full of service and usefulness, and has gone like a ripened sheaf to her Lord, her place will be hard to fill. We will pray that the Lord will raise up some one in her place, and that the work in Japan will go forward with a greater impetus than ever before, for her having given her life in service for this cause.

Lovingly, for Los Angeles County,

Hattie M. Doughty, President,

Lily C. Richardson, Corresponding Secretary

for a membership campaign, as well as other points that would mean added strength and influence for our work in Japan.

WORK DONE FOR WOMEN

"Mrs. Gauntlett in her treatment of the subject, 'Social Problems and Progress of Work in Japan,' told us in detail of the efficient work done for women and girls by Miss Moriya and Miss Shimada. She pointed out that the Suffrage movement in Japan was organized within the W. C. T. U. Mrs. Kubushiro, president of this movement, together with Mr. Matsuyama, Mr. Hoshijima and many others of prominence, are doing their utmost in behalf of the emancipation of women in Japan. The bill before the Diet restricting prostitution and the acceptance of posters by 25,000 schools are two splendid instances of the marked progress that has been made during the last year.

"The mid-day prayer was led by Mrs. Roy Smith. The time was devoted to an appropriate memorial for the late American Ambassador and Mr. William Jennings Bryan.

"The afternoon session on the first day was opened by a chorus, 'I hear the Voice of Jesus Say,' sung by the Young Ladies' Bible Class. Following this, 'The Essential of Success,' was treated forcefully by Mr. Mark Shaw. He mentioned 12 essentials as follows: education, investigation, organization, agitation, legislation, determination, proper estimation of the task, co-operation, a looking toward the interest in the salvation of mankind. He closed with the thought—there is no demarkation between temperance and religion.

"At the devotional period of the July 30 session, Miss Searle dwelt upon the passage in Exodus, 'What is in Thine Hand.'

"Mr. K. Ozaki, from the National Christian Council of Japan, brought a message of greeting to the assembly and expressed a desire to co-operate in combating in temperance and social evils in Japan. Mrs. Draper's report on work with mothers shows the great enthusiasm exhibited by the 5,300 mothers who are members of the Mothers' Association of Japan. This association was organization in 1898 through inspiration gained by delegates who attended the second national Congress of Mothers in Washington, D. C. There are 10,000 leaflets published by this association evey month.

"The memorial services for Mrs. J. K. McCauley and Madame

REPORT OF THE 29TH. ANNUAL CONVENTION OF THE FOREIGN AUXILIARY OF THE W.C.T.U. HELD AT KARUIZAWA

The officers of the Foreign Auxiliary chosen at the end of the 29th convention in Japan are: Vice-President, Mrs. R. D. McCoy; Corresponding Secretary, Miss Martha Gibson; Recording Secretary, Mrs. Burnham Braithwaite; Treasurer, Mrs. A. A. Leininger.

Other officials for various divisions of the Union's work in Japan include the following: Lord's Day Observance, Mrs. George Braithwaite, Sr.. Social Purity, Mrs. Gilbert Bowles; Literature, Mrs. R.P. Alexander; Mother Meetings, Mrs. G. F. Draper; Publicity, Mrs. A.M. Pinsent; Children's Program, Miss Hazel Harker; Scientific Temperance, Miss Edith Newlin.

Mrs. S.H. Wainright was elected president of the Tokyo Circle of the W.C.T.U. for the coming year. Miss Gartrude Ryder is president of the Ko-BoKwan and Miss Searle is president of the Kwansai Circle.

MRS. KENNARD REPORTS

Mrs. J. S. Kennard, retiring president of the W. C. T. U. in Japan, read a detailed report at the opening of the convention. She pointed out that the Japanese use as much rice in the manufacture of sake annually as they import, and that this is one reason why thousands of children are in families too poor to send them to school. A result is illiteracy among a great part of the population that, were it not for the consumption of sake, could have at least a common school education.

The treasurer's report showed a total of ¥ 1,349,58 received during the year. Disbursements in the report totaled ¥ 730,28.

The following detailed report of the convention is made by the new Vice-President, Mrs. McCoy:

"The President's report brought with it interesting facts concerning the work of the year. A special plea was made for closer co-operation with the National Union, for definite efforts to maintain right living among our own members, to assist in the Japanese 'Purity Movement,'

編輯室から

◇秋冷の氣天に滿つ。春、花に浮かれ、秋、何とは知らぬ物の哀れを感ずるのは人の常であらう。空氣が爽かで物を考へるに適した時季になつた。

◇社會的に眺めてみると、不思議に秋は種々の問題が突發したり、運動が起されたりする。今年は、婦人兒童の賣買問題で吾等同志は戰つた、他の文明諸國で廿歳の保護年齡を廿一歳に引き上げたのでも滿足し切れずに、もつとつき進んだ考へを持つてゐるのに、日本ばかりは相變らずの煮え切らぬ態度であるのは實にお恥かしい次第である。

◇十月は昨年にもまして効果の多い會員募集月でありたい。昨年は初めての試みだつたけれ共、今年は二回目である、全國會員諸姉と共に、大いに募集競べを致したい。いづれ支部には色々印刷物が送らるゝことゝ思はれますが、方法は御自由、そこに愉快な競爭も出來るのだと思はれる。

◇本號掲載の賀川豐彦氏の「文明への反逆」は、氏が外遊の感想である。觀察の結果である。どうかそのつもりで御熟讀願ひ度ひ。

◇本號には久布白幹事の滿鮮地方巡廻、守屋幹事の南洋漫記など旅行記が多い、いづれも特別な讀物として御紹介する。

◇十一月號には家庭向きの讀み物、實用向きの記事を少し入れたいと思ふ。(エス・エム)

個人消息

▽林副會頭　九月十二日理事會に出席の爲上京、今回の婦女賣買問題の爲他の役員と共に東奔西走、漸く十九日歸阪さる。

▽久布白幹事　九月十四日より十日間の豫定にて北陸部會巡廻の途につかる。

▽守屋幹事　九月十六、七兩日靜岡高等學校排酒會發會記念講演會のため出席。

▽城法律部長　九月廿七日より東北部會巡廻の途につかる。

▽岩瀨壽子氏(四國部會長)　九月廿二日神戸出帆の箱根丸にて歐洲諸國の教育宗教社會事業、家庭生活等視察の爲出發さる。

▽川戸環氏　亡父君植村正久氏の姓と志を繼ぎ、愛兒を殘して、神學研究の目的で九月廿八日横濱出帆渡英の途に就かれた。

社告

婦人新報定價

一部二十　送郵稅五厘
半年分一圓二十錢　郵稅共
一年分二圓四十錢
(但し海外は郵稅別)

◇廣告御希望の方へは詳細お知らせ致します。
◇送金は凡て振替が便利でございます。
◇誌代は前金、切手代用は一割增、
振替口座東京三二四六九
電話四谷六五六〇番
編輯及事務所婦人矯風會本部

大正十四年九月廿九日印刷
大正十四年十月一日發行
發行兼印刷人　小崎千代
編輯人　久布白落實
發行所　東京市外大久保百人町三百六十番地　婦人新報社
印刷所　東京市小石川區久堅町百八　株式會社博文館印刷所